

新潟県刈羽郡西山町

井ノ町遺跡発掘調査報告書

—県営ほ場整備事業浜忠地区に伴う発掘調査—

2001年3月

西山町教育委員会

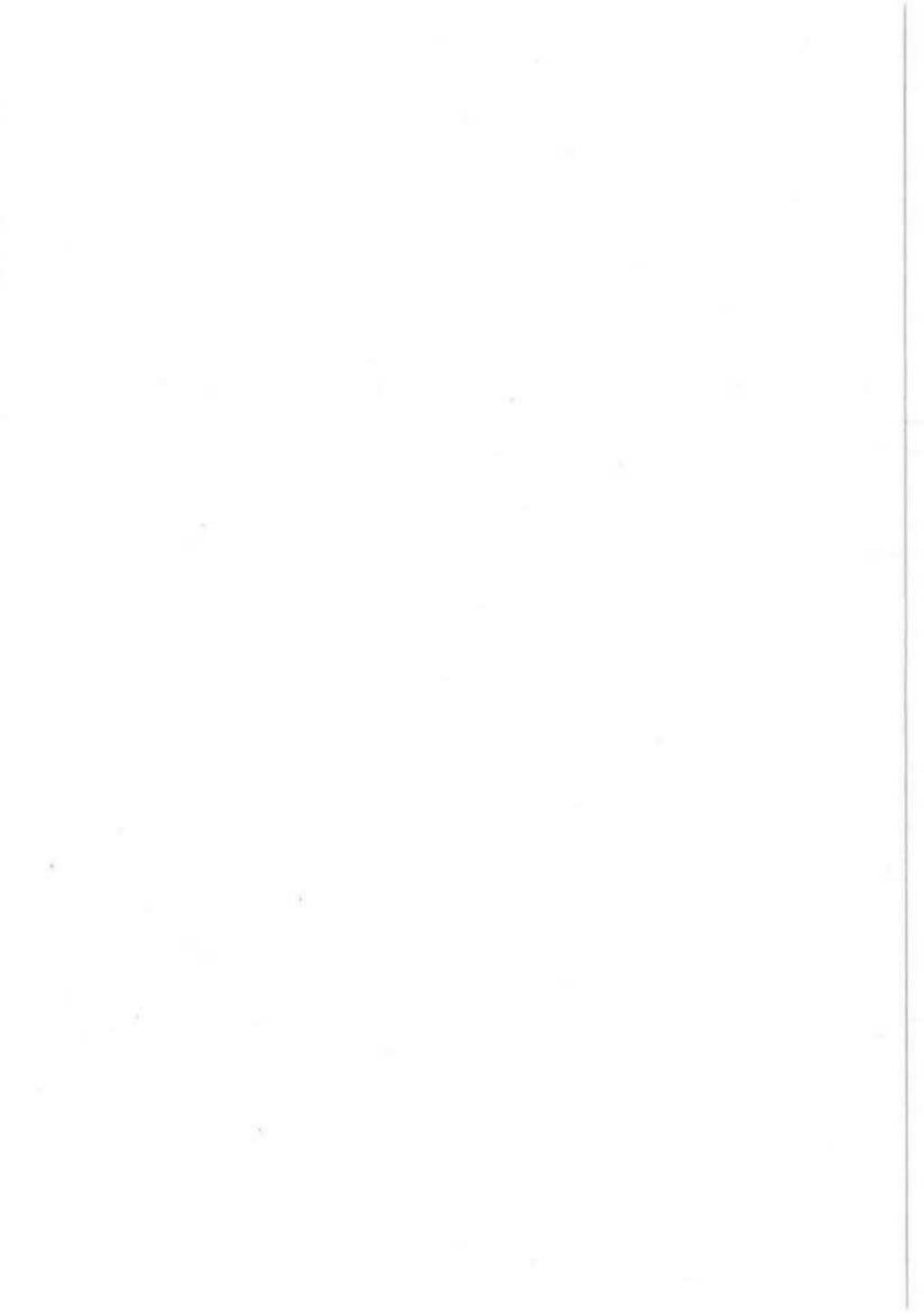
新潟県刈羽郡西山町

井ノ町遺跡発掘調査報告書

— 県営ほ場整備事業浜忠地区に伴う発掘調査 —

2001年3月

西山町教育委員会



例　　言

1. 本書は、新潟県刈羽郡西山町大字浜忠字井ノ町に所在する井ノ町遺跡の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査は、県営は場整備事業に伴い西山町が柏崎農地事務所と費用負担契約を交わして実施した。
3. 調査主体は西山町教育委員会であり、分布調査は新潟県教育庁文化行政課職員の派遣を受けて実施した。発掘調査は平成10年10月8日から同年12月24日までの延べ40日間を行い、引き続き平成13年3月31日まで報告書作成を行った。調査体制等は調査経緯の項で述べる。
4. 調査費用は90%を農政部局が、残りの10%を文化財保護部局が負担した。保護部局分の50%は国庫補助金、25%は県費補助金を受け、残りの25%を西山町が負担した。
5. 遺物の注記には「IN」の略号を用い、調査年度である98を付した。出土資料及び記録は西山町教育委員会で保管している。
6. 本報告書の作成は中島義人の指示のもと整理作業員が行い、本文の執筆はすべて中島が行った。
7. 本文・図版中の北は真北をさし、磁北は真北より西偏約7度34分である。
8. 遺物実測図の縮尺は、柱根1:8、土器類大型品1:4、その他1:3を基本とした。
9. 遺構の表記には以下の略号を用いた。
掘立柱建物…SB　土坑…SK　柱穴・ビット…SP　溝…SD
10. 土器実測図は断面黒塗りのものが須恵器・珠洲焼きで、梨地が灰釉陶器、他のものは土師器である。土師器の黒色処理が施されている部分は濃い梨地で表した。
11. 遺構平面図の作成及び諸測量、空中写真的撮影は御朝日航洋に委託して行った。
12. 現場の土色観察及び土器の色調観察には『新版標準土色帖』(小山・竹原 1967) を用いた。
13. 発掘調査においては地元浜忠集落の皆様の多大な御理解・御協力をいただきました。また、大崎・石地・大津集落の皆様からは、調査作業員として御協力を賜りました。ここに厚くお礼申し上げます。
14. 発掘調査から報告書作成に至るまで以下の方々及び機関から御教示・協力を頂いた。記して感謝申し上げます。(敬称略・順不同)
宇野隆夫　春日真実　加藤 学　川村 尚　北野博司　北村 亮　田中 亨
笹沢正史　高橋 勉　田辺早苗　望月精司　新潟県柏崎農地事務所
新潟県教育庁文化行政課　新潟県埋蔵文化財調査事業団　刈羽村教育委員会

目 次

第Ⅰ章 調査に至る経緯.....	1
第Ⅱ章 遺跡の環境.....	2
1. 地理的環境.....	2
2. 歴史的環境.....	2
第Ⅲ章 調査の概要.....	5
1. 調査の方法.....	5
2. 基本層序.....	5
3. 造構.....	5
4. 遺物.....	9
まとめ.....	18
参考文献	

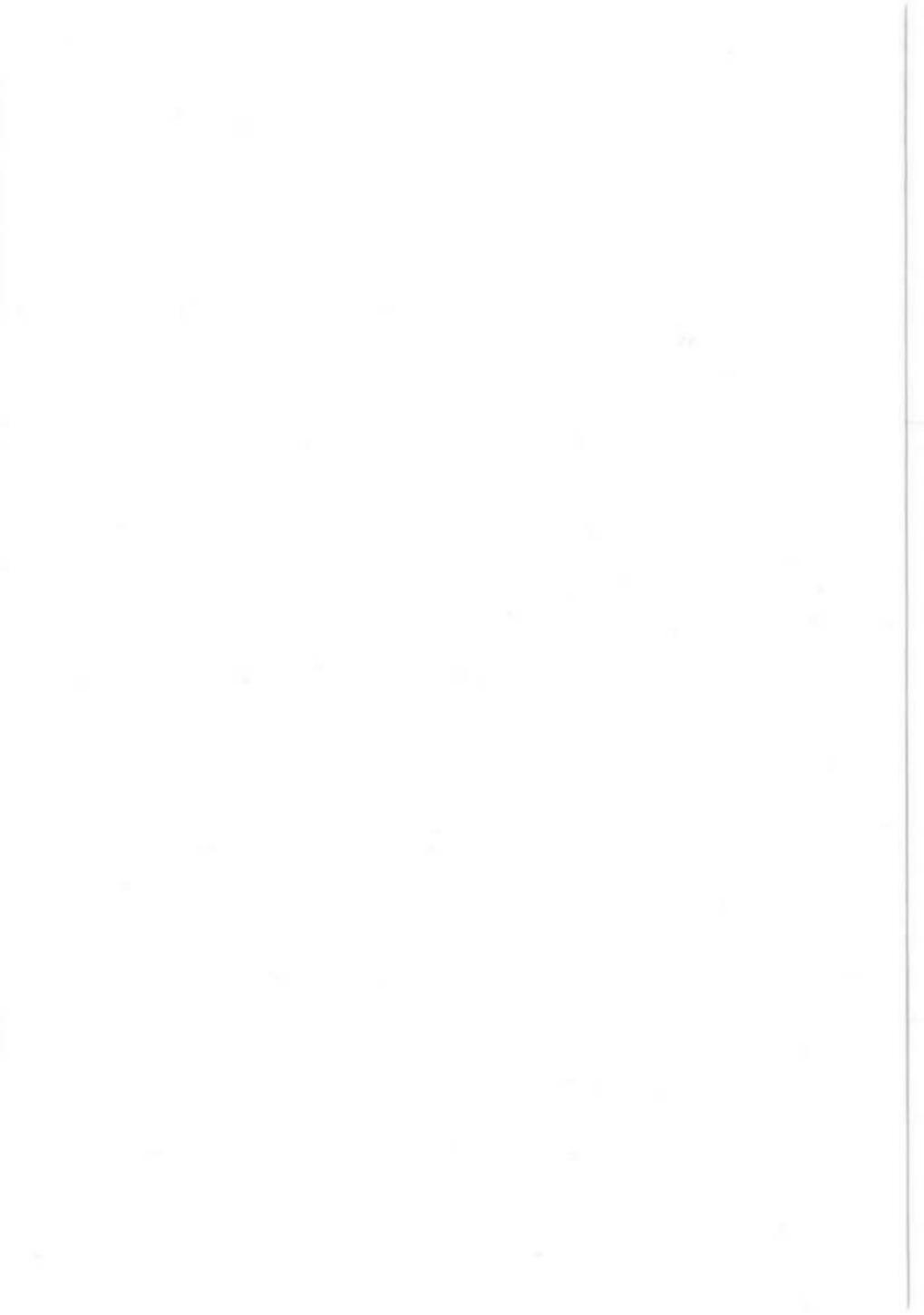
挿図目次

第1図 井ノ町遺跡と周辺の遺跡 (S = 1 : 25,000)	
第2図 井ノ町遺跡と周辺の地形 (S = 1 : 50,000)	
第3図 発掘調査区の位置 (S = 1 : 5,000)	
第4図 発掘調査範囲 (S = 1 : 2,000)	

図版目次

図版 1	造構全体図 (折込)
図版 2	造構個別図
図版 3	造構個別図
図版 4	造構個別図
図版 5	造構個別図
図版 6	造構個別図
図版 7	造構個別図
図版 8	造構個別図
図版 9	造構個別図

图版 10	· · · · 遗物実測図
图版 11	· · · · 遗物実測図
图版 12	· · · · 遗物実測図
图版 13	· · · · 遗物実測図
图版 14	· · · · 遗物実測図
图版 15	· · · · 遗物実測図
图版 16	· · · · 遗物実測図
图版 17	· · · · 遗物実測図
图版 18	· · · · 遗物実測図
图版 19	· · · · 遗物実測図
图版 20	· · · · 遗物実測図
图版 21	· · · · 遗物実測図
图版 22	· · · · 遗物実測図
图版 23	· · · · 遗物実測図
图版 24	· · · · 遗物実測図
图版 25	· · · · 写真図版
图版 26	· · · · 写真図版
图版 27	· · · · 写真図版
图版 28	· · · · 写真図版
图版 29	· · · · 写真図版
图版 30	· · · · 写真図版
图版 31	· · · · 写真図版
图版 32	· · · · 写真図版
图版 33	· · · · 写真図版
图版 34	· · · · 写真図版
图版 35	· · · · 写真図版
图版 36	· · · · 写真図版
图版 37	· · · · 写真図版
图版 38	· · · · 写真図版
图版 39	· · · · 写真図版
图版 40	· · · · 写真図版
图版 41	· · · · 写真図版
图版 42	· · · · 写真図版
图版 43	· · · · 写真図版
图版 44	· · · · 写真図版



第Ⅰ章 調査に至る経緯

西山町では平成8年度から浜忠地区において県営は場整備事業が実施されることとなり、柏崎農地事務所から町教育委員会に埋蔵文化財に関する照会があった。これをうけて、町教育委員会は新潟県教育庁文化行政課と協議し、工事範囲内に周知の遺跡は確認されていないが地形的に遺跡の存在が予測されることから、文化行政課職員の派遣を要請、職員の指導のもとに事業計画地内の分布調査を実施した。調査の結果、平安時代の須恵器・土師器を中心とする遺物が多く採集され、遺跡が存在する可能性が濃密になった。そのため、平成11年度工事予定範囲のうち掘削を伴う範囲において試掘調査を実施したところ、平安時代の須恵器・土師器とともに遺構が確認された。これらの結果をもとに、柏崎農地事務所と県教育委員会文化行政課・町教育委員会の間で協議を行い、工事による掘削が遺物包含層に及ぶ範囲の約2,500m²において遺跡の記録保存を目的とした発掘調査を工事に先立って実施することとなった。柏崎農地事務所長は平成10年8月5日付け柏農地第1492号で文化庁長官へ文化財保護法第57の3第1項の規定による通知を提出した。また、平成10年7月23日付で、柏崎農地事務所と西山町が発掘調査の費用負担契約を交わし、西山町教育委員会が主体となって発掘調査を実施した。文化財保護法第98条の2による通知は平成10年10月26日付け西教第266号によって、西山町教育長から文化庁長官へ提出した。

各調査の調査体制及び期間は以下の通りである。

分布調査（平成9年3月5・6日）

調査主体 西山町教育委員会（教育長 三嶋千穎）
事務局 伊比弘毅（西山町教育委員会教育課長）
調査員 北村 亮（新潟県教育庁文化行政課 主任調査員）
吉田淳一（ “ ” 主任調査員）

試掘調査（平成9年9月29日～10月1日）

調査主体 西山町教育委員会（教育長 三嶋千穎）
総括 伊比弘毅（西山町教育委員会教育課長）
庶務 力間久代（ “ ” 主査）
調査員 北村 亮（新潟県教育庁文化行政課 主任調査員）
山田 雄（ “ ” 文化財調査員）

発掘調査（平成10年10月8日～12月24日）

調査主体 西山町教育委員会（教育長 三嶋千穎）
総括 伊比弘毅（西山町教育委員会教育課長）
庶務 力間久代（ “ ” 副参事）
調査担当 中島義人（ “ ” 主事）

第Ⅱ章 遺跡の環境

1. 地理的環境

西山町は新潟県の中央よりやや南西の海岸沿い、柏崎平野の北部に位置する。行政区画は約56.63km²を測る。町の地勢の多くは山間地であり、南南西から北北東へ走る曾地丘陵と西山丘陵、両丘陵の構造線に直行して派生する支尾根によって形成される。平野部は曾地・西山両丘陵の間を南流して柏崎市内で鶴石川に合流する別山川沿いと支尾根間の谷に形成される。

井ノ町遺跡が立地する浜忠地区は西山丘陵から西の海岸へ派生した支尾根に挟まれた谷に位置する。遺跡は海岸から約1.8km入った尾根の裾、西山丘陵から日本海へ流れ込む仁位殿川の北岸の水田下より見つかった。

2. 歴史的環境

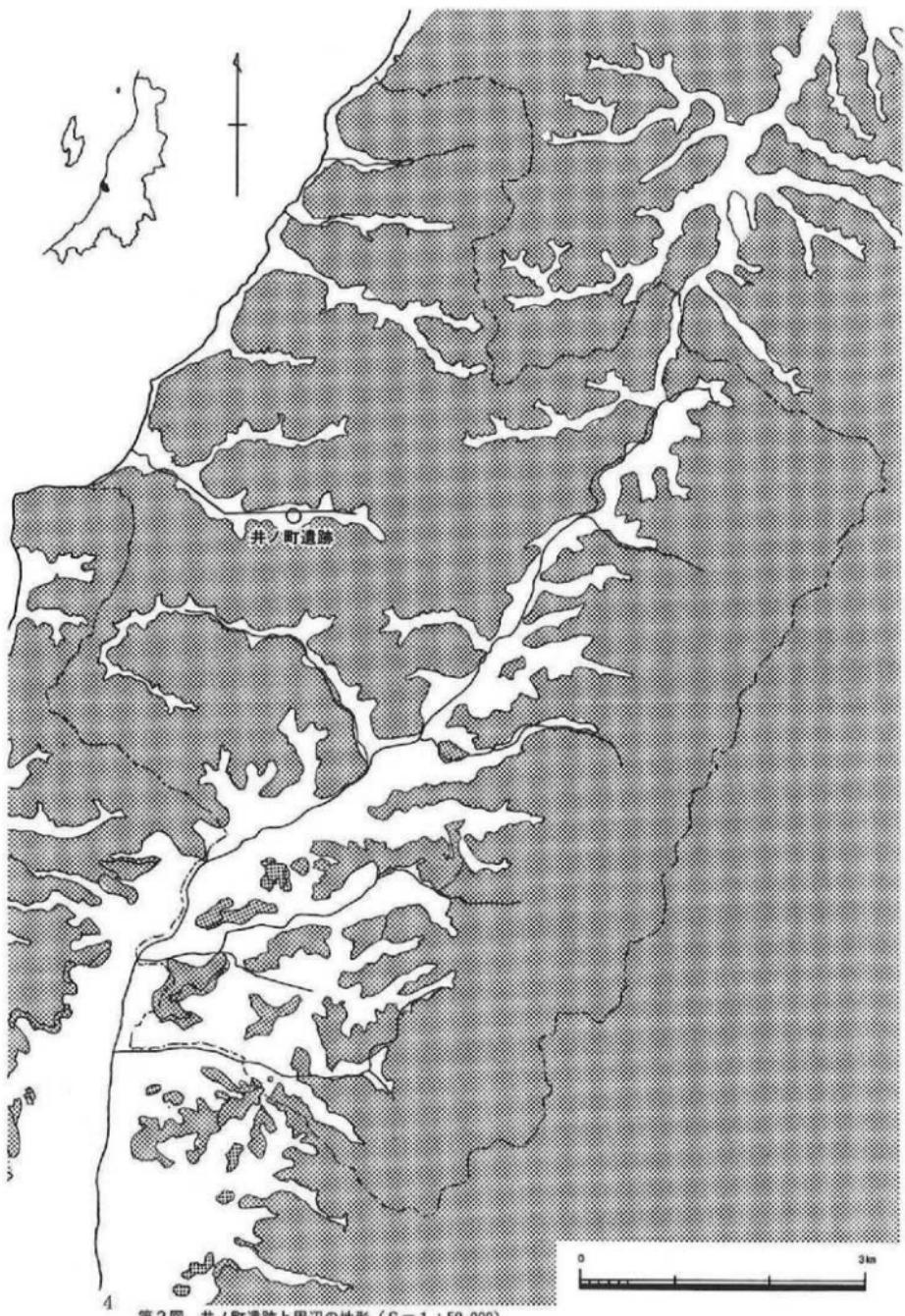
西山町は現在刈羽郡に属しているが、律令制期には古志郡、その後9世紀初頭に分立した三嶋郡に属した。刈羽郡という呼称は14世紀の文書で私称されたのが初見で、江戸時代に公称されたとされる。北陸道諸国は古墳時代には越国の一國であった。これが、天武もしくは持統朝期(680~690年頃)に越国が三分割され、古志郡は頸城・魚沼・蒲原郡とともに越中に属した。その後、8世紀初頭にこれら四郡は越後の国に繰り入れられた。三嶋郡には三嶋・高家・多岐の3郷があったとされ、別山川流域は多岐郷であったと考えられる。また、郡内に6社あったとされる延喜式内社のうち二田物部神社・御島石部神社・石井神社・多岐神社の4社の名が町内に残っている。

西山町では現在確認されている遺跡は塚群や城館跡を除くとそれほど多くない。新潟県遺跡台帳に登録されている町内の埋蔵文化財包蔵地は173件(平成13年3月現在)あり、内訳は集落跡・遺物包含地18件、城館跡11件、製鉄跡1件、塚142件、石塔1件であり、塚がその80%以上を占めることとなる。

町内では古墳時代及び古代の遺跡で内容が把握できる遺跡は未だ少ない。高塙B遺跡は石地海岸近くの砂丘上に立地する遺跡で、遺構は確認されなかつたが古墳時代前期と後期の遺物が出土している。前期の遺物は布留式古段階に平行し、S字状口縁甕や鉄兜型鉢などが出土している。また、後期では黒色処理を施した碗や、平底長胴の甕、瓶などの土師器が出土している。尾野内遺跡は別山川左岸の曾地旧領裾の平坦部に立地し、竪穴住居が1棟、9世紀後半から10世紀代の須恵器・土師器が出土している。畠田遺跡は古墳時代後期を中心とする遺跡であるが、古代の遺物も出土している。古墳時代後期の遺物には黒色処理を施す碗や甕などの土師器のほかに須恵器の蓋杯・高杯・甕などが出土しており、竪穴住居が4棟検出された。古代の遺物は少ないが須恵器・土師器などが出土し、歯状遺構が検出された。宮ノ前遺跡は現在整理中であるが、畠田遺跡に隣接する遺跡で、古墳時代後期・古代・中世の遺物・遺構が検出された。古墳時代の遺物には須恵器蓋杯や甕、土師器などがある。古代では、須恵器・土師



第1図 井ノ町遺跡と周辺の遺跡 (S = 1 : 25,000)



第2図 井ノ町遺跡と周辺の地形 ($S = 1 : 50,000$)

器碗・灰釉陶器が出土している。また、掘立柱建物も多数確認している。このほか未調査の遺物包含地として、坂田遺跡・野崎遺跡などがある。

第Ⅲ章 調査の概要

1. 調査の方法

調査に用いるグリッドは国土座標を用いて5m方眼で設定した。Y軸を真北にあわせ南から北へ、直行するX軸は西から東へ番号を付した。包含層出土の遺物はこのグリッド単位で取り上げを行った。

2. 基本層序

基本層序は上から耕作土、青灰色粘土（盛土）、灰褐色粘土（盛土）、暗灰色粘土、にぶい赤褐色粘質土、暗褐色粘質土、にぶい橙色粘質土（地山）、青灰色粘質シルト（地山）の順である。遺物包含層は暗灰色粘土層から暗褐色粘質土層である。

3. 遺構

井ノ町遺跡で検出された遺構には掘立柱建物（SB）、土坑（SK）、溝（SD）、柱穴（SP）、川跡がある。用途不明の大型の遺構は全て土坑に含めた。

SB 1 衍行3間、梁行2間で南西面に廟が付く。主軸方位はN-52°-Eである。柱間は衍行きが2.4m、梁行きが2.5mでそれぞれほぼ等間隔である。廟を含めた面積は45.47m²を測る。SK 225を切り、SB 2・SK 287に切られる。柱穴堀方は一辺約1m前後の方形で、遺構確認面からの深さは約0.8mである。廟の堀方直径は60cm前後の円形である。SP 173・193・230・241・283・284・174から柱根が出土している。柱穴埋土から須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・横瓶、土師器甕が出土した。

SB 2 衍行3間、梁行2間で、全壁の中央でやや広がる。主軸方位はN-45°-Wである。柱間は衍行きが1.6m、梁行きが2.4mで、面積20.53m²を測る。SP 233がSB 1柱穴SP 234を切る。柱穴堀方は70cm前後の円形である。SP 233から土師器甕の口縁部が出土した。

SB 3 衍行2間、梁行1間で、主軸方位はN-30°-Wである。面積9.57m²を測る。柱穴堀方は30~40cmの円形である。SP 167から須恵器有台杯の口縁部が出土した。

SB 4 衍行3間、梁行2間で、主軸方位はN-37°-Wである。面積35.64m²を測る。SK 388を切る。柱穴堀方は40cm前後の円形である。SP 291土師器甕が出土した。



第3図 発掘調査区の位置 ($S = 1 : 5,000$)



第4図 発掘調査範囲 ($S = 1 : 2,000$)

S B 5 衍行3間、梁行3間で、主軸方位はN-50°-Wである。面積48.28m²を測る。柱穴堀方は80cm前後の円形である。S P 268から須恵器有台杯が出土した。

S B 6 衍行2間、梁行2間で、主軸方位はN-44°-Wで、東西壁は中央がやや広がる。面積20.77m²を測る。北西角の柱穴は検出できなかった。柱穴堀方は50cm前後の円形である。S P 137に柱根が残る。

S B 7 衍行2間、梁行2間で、主軸方位はN-38°-Wである。面積15.67m²を測る。柱穴堀方は40cm前後の円形である。

S B 8 衍行3間、梁行2間で、主軸方位はN-35°-Wである。面積18.55m²を測る。南西角の柱穴は検出できず、他の柱穴堀方は30cm前後の円形である。S P 159から須恵器無台杯が出土した。

S B 9 衍行2間、梁行1間で、主軸方位はN-1°-Wである。面積2.88m²を測る。北東角の柱穴は検出できず、他の柱穴堀方は30~40cmの円形である。S P 29・294に柱根が残る。

S B 10 衍行2間、梁行1間で、主軸方位はN-6°-Eである。面積10.18m²を測る。柱穴堀方は40~60cmの円形である。

S A 1 S B 1の南東に位置する3間の槽で、全長6.16mである。堀方は30cm前後の円形である。S P 280から須恵器有台杯が出土した。

S K 287 長径6.5m、短径4.6mの不正楕円形の浅い土坑である。床面はゆるい凹凸が見られる。S B 1柱穴S P 286・S P 193を切る。須恵器杯蓋、土師器碗・鍋が出土した。

S K 388 長径8.4m、短径2.8mの不整形の浅い土坑である。埋土に炭化物を含む。S B 4に切られる。

S K 12 長径3.4m、短径2.4mの隅丸長方形の土坑である。壁の立ち上がりはゆるく、床面はほぼ平坦である。埋土は東から流れ込むように堆積する。ほぼ中央でS P 389に切られる。須恵器杯蓋・有台杯・無台杯、土師器甕、木製品が出土した。

S P 389 直径40cmのピットである。S K 12を切る。埋土はしまりの強い粘質シルトである。杭が出土した。

S K71 長さ4.3m、幅2mの不正形の土坑で、壁の立ち上がりはゆるく、底面は凹凸が顕著である。古墳時代の土師器甕が出土した。

S D51 長さ2.9m、幅0.4mの溝である。須恵器無台杯が出土した。

S K79 長径1.7m、短径1.1mの土坑で、床はほぼ平坦である。古墳時代の土師器甕が出土した。

S K272 2.2mの隅丸方形の土坑である。壁の立ち上がりは急で床面はほぼ平坦である。埋土はほぼ水平に堆積する。須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・長頸瓶・甕などが床面から浮いた状態の第8層より上位で出土した。

S D216 長さ1.8m、幅0.4mの溝である。須恵器有台杯が出土した。

S P153 直径0.4mのピットである。柱根が出土した。

S P160 直径0.3mのピットである。土師器甕・甕が出土した。

S K223 直径1.2mの円形の土坑である。断面半円形で立ち上がりはゆるい。炭化物を多く含む層が薄く広がる。遺物は出土しなかった。

S K308 直径0.8mの円形の土坑である。埋土は暗褐色粘質シルトの単層である。床面から伏せた状態の剣物梳、須恵器有台杯・無台杯が出土した。

S K302 直径1.1mの円形の土坑である。浅く床面は丸みを帯びる。床面には炭化物を多く含む層が薄く拡がり、その上に一部焼けた粘土による層が形成されている。遺物は出土しなかった。

S K338 東側が調査壁で途切れる。幅2.68mの深い土坑で、床面はほぼ平坦である。須恵器杯蓋・有台杯・無台杯・甕、土師器甕などが床面よりやや浮いた状態で出土した。

S K340 北と東が調査壁によって途切れる。大型の土坑で床面には細かい凹凸が拡がる。図示し得た遺物は須恵器甕一点であるが、須恵器・土師器の小片が多く出土している。

川跡 調査区のはば中央に位置し、幅約1.5mで北北東から南南西へ走る。上流は遺跡の北側の

谷へ伸び、下流は二位殿川に合流したものと思われる。床面及び埋土から遺物が多量に出土した。

4. 遺物

S B 1

柱穴埋土から須恵器・土師器が出土している。1・5・122は須恵器無台杯の口縁部破片で、1は底径が大きく口縁部はやや直立気味に立ち上がり、5は口縁部が内湾気味に大きく開く。122の口縁部は大きく開き、焼成は軟質である。128は須恵器無台杯の底部で器壁は薄く、外底面にナデを施すが、ヘラ切り痕が明瞭に残る。3・119は杯蓋で口縁端部を折り曲げる。いずれも外腹天井部にロクロケズリをする。4・10・125・126・127は有台杯で4は口縁部が直線的に大きく開く。10は直立気味でやや細い高台を持つ。125は直線的に口縁部が伸び、胎土に大きめの礫を含む。127は器壁が薄く焼成は軟質である。126は高台径13.6cmを測る。内底面に不定方向のナデを多く行い、外底面にロクロケズリを施す。高台は外へ開く内端接地である。胎土は緻密で大きめの白色礫を含み、焼成は軟質である。2・7・8・9は土師器甕である。2は非ロクロ成形の小型のもので口縁部内面にコゲが付着する。7・8・9はロクロ成形によるもので、8は体部にカキメが巡る。

柱根は7本出土した。11・12・14・16は側面下端から底面に貫通する孔を持つ。15は下端よりやや上に溝を巡らせる。

S A 1

S P 280より出土している。18は須恵器有台杯の底部で太く短い高台が付く。底部切り離し痕を丁寧にナデ消す。19は無台杯の口縁部である。

S B 2

20はS P 233出土の土師器甕の口縁部破片である。口縁部が内湾して開く。

S B 3

21はS P 167出土の須恵器有台杯の口縁部である。

S B 4

S P 291・S P 287から出土している。22は土師器甕の口縁部で、端部に面を取る。23は須恵器杯蓋で、外面頂部にヘラケズリを行い、端部を折り曲げて丸く収める。24は土師器甕で、非ロクロ成形で、外面体部に指頭圧痕が顕著に残る。器壁は厚く、胎土に礫を多く含む。25は土師器鍋で、ロクロ成形である。体部下半に煤が付着する。

S B 5

26はS P 268出土の須恵器無台杯である。内面にロクロナデによる段が明瞭に残る。139・140はS P 367の出土である。139は須恵器無台杯で外底面に漆書きがある。140は土師器甌で平底の底部に刺突による孔があく。体部外面に不定方向のヘラケズリを行う。

S B 6

27はS P 137出土の柱根である。太さ約1.6cm、残存長33.8cmを測る。底面は平坦である。

S B 7

29・30は柱根である。遺存状態は悪く中空になっている。

S B 8

28はS P 268出土の須恵器無台杯である。口径12cmを測る。

S K 12 (31~51)

31・32は須恵器杯蓋で、31は端部を長く垂下させ、32は短く折り曲げる。33は須恵器有台杯で口縁部は垂直気味に立ち上がる。34~46は須恵器無台杯である。いずれも器壁は薄い。34・38・41・43は底部のヘラ切り痕が顕著に残る。35は口縁部内面に一部煤が付着する。44は胎土が緻密であるが白色粒子をそれほど多く含まず。焼成は軟質で底部の切り離し痕を丁寧にナデ消す。36・37・39・40・42・45・46は胎土がやや荒く大きめの白色礫が混ざる。底部の切り離し痕は丁寧にナデ消す。47~50は土師器甌である。47は器壁が薄く、胎土に1mm以下の小礫を多量に含む。48は口縁部が短く、内面に炭化物が付着する。内外面にカキメを施す。49・50は胎土及び焼成から同一個体と見られる。口縁部は短く外反させ、内面に炭化物が薄く残る。体部下位の内面には接合痕とカキメが見られる。

S P 389

52は杭状木製品である。先端へ向けて削った加工痕が明瞭に残る。

S K 71

53是非ロクロ成形の土師器甌で口縁部にヨコナデ、体部外面に継のハケメを施す。

S D 51

54・55は須恵器無台杯で口縁部は大きく開く。55の口縁部内面に煤が付着する。

S K79

56は非ロクロの土師器碗で平底の底部から体部が内湾して開き、口縁端部で外反する。内面にヘラミガキを行う。

S K272 (57~70)

57・58は須恵器杯蓋で、57は天井部にロクロケズリを行う。端部は折り曲げで断面は三角である。58の口縁端部は巻き込みで断面三角角で、外面天井部に丁寧なロクロナデを行う。59~67は須恵器無台杯である。胎土観察では3種に分けられる。59・67は胎土が緻密で、器面上に黒色の吹出が目立つ。ヘラ切り痕を軽くナデ消す。61~64の胎土は前者に似るが黒色の吹出がほとんど見られない。いずれも口縁端部が内湾気味に収まる。66は前2者に比して胎土が荒く、小穢が少量混ざる他の混入物は目立たない。底部のヘラ切り痕を不定方向のナデにより丁寧に消す。68は須恵器長頸瓶の頸部破片である。内面にロクロナデによる段が明瞭に残り、胎土は緻密で堅緻である。69・70は須恵器甕である。69は外面に擬格子の叩目、内面に同心円の当具痕が残る。70は肩部破片で、外面は擬格子叩きの後カキメを巡らす。内面の当具痕は同心円である。

S D216

71は須恵器有台杯でやや外側へ開く太い高台が付く。丁寧なロクロナデ調整を施す。胎土は精良で焼成は堅緻である。灰白色を呈する。

S P160

72は土師器碗で口縁部が大きく開く。調整はヨコナデである。73・74は土師器甕である。74は外面にタテハケを施す。

S K308 (75~78)

75は須恵器有台杯で、外側へ開く内端接地の高台が付く。還元が不完全で、にぶい黄橙色が混ざる。76・77は須恵器無台杯である。いずれも焼成は軟質である。78は割り物である。中央で二つに割れる。外面には細かい加工痕が残る。

S K340

79は須恵器無台杯の口縁部で、端部が内湾気味に収まる。

S P27

80は土師器高杯の杯底部である。

S P 54

81は須恵器有台杯の口縁部で直線的に開く。

S P 126

82は須恵器無台杯である。底部が丸底氣味に膨らむ。

S P 127

83は須恵器無台杯の口縁部である。84は須恵器甕の体部破片で外面にハケ状工具痕、内面に同心円当具痕が残る。

S K 338 (88~106)

88は須恵器杯蓋で、口径14cmを測る。口縁端部は巻き込みで断面は丸味を帯びた三角形を呈する。89~92は須恵器有台杯である。いずれも器壁は薄く、直線的に開く深い口縁部である。90の高台は内側へ縮まる外端接地である。93~103は須恵器の無台杯である。いずれも口径に比して底径が小さく、口縁部の開きが大きい。胎土も類似し緻密で黒色の吹出が目立つ。93は焼成が軟質で口縁部に煤が強く付着する。94の口縁部には少量の煤が付着する。104は須恵器甕の体部破片で外面に擬格子叩目、内面に平行当具痕がある。105は土師器甕の口縁部である。ロクロ成形で、端部に面取りを行う。

S P 141

107は須恵器無台杯の口縁部で、端部がやや内湾氣味となる。108は土師器甕の底部で外面は劣化して剥落している。109は須恵器甕の体部破片で、外面に擬格子叩き後カキメを施し、内面当具痕は同心円である。

S P 147

111は須恵器甕の肩部で外面に平行叩き後カキメを施し、内面当具痕は同心円である。焼成は軟質である。

S P 188

112は土師器碗で、口縁端部が外反する。口縁部に煤が付着する。

S P 192

114は須恵器無台杯で底部のヘラ切り痕を荒くナデ消す。灰白色を呈し硬質である。

S P 188

115は土師器壺で口縁端部が内湾する。器壁は薄く、焼成は良好で堅緻である。

S P 200

116は須恵器有台杯の口縁部で、直線的に開く身の深いものである。

S K 225

117は須恵器有台杯で開き氣味で内端接地の高台が付く。118は須恵器無台杯で口縁部に煤が少量付着する。

S D 255

120は須恵器有台杯で短く開く高台が付く。口径11.8cm、器高3.7cmを測る。121は土師器鍋で口縁部内面にヨコハケを施す。胎土は砂粒を多く含む。

S P 292

123は土師器壺の底部である。径4cmの平底で、体部外面に縱のハケメを施す。

S P 305

124は須恵器有台杯の口縁部である。口径12cmを測り、直線的に開く。

S P 325

129は須恵器無台杯で、底部はヘラ切り後荒いナデ調整を行う。器壁は厚く、胎土に白色の礫を多く含む。130は須恵器壺の口縁部である。131は有台壺の底部である。内側に縮まる外端接地の太い高台が付く。

S P 344

132は土師器高杯で短い脚部に大きく開く杯部が付く。杯部内面にヘラミガキを施す。

S P 342

133は縄の羽口である。太さ6.3cm、孔の直径1.8cmである。

S P 306

134・135は須恵器無台杯の口縁部である。134は口縁部が内湾しながら大きく開く。135の口縁部は直線的に開き、内面端部下にナデによる凹線が巡る。

S K339

136は須恵器無台杯で口径13cm、底径9.6cm、器高3.2cmを測る。胎土は粗く、白色の礫を多く含む。

S P341

137・138は須恵器無台杯の口縁部である。いずれも器壁は薄く、口縁部は大きく開く。

S P386

141は須恵器有台杯で口径13cm、底径8cm、器高7.2cmを測る。高台は内へ締まる外端接地で、口縁部は直線的に伸びる。外底面にあばた状の剥離が拡がる。

S P387

142は須恵器有台杯で内側に締まる細くやや高い高台が付く。灰白色を呈し、胎土に白色の礫を少量含む。143は小片のため明確ではないが須恵器無台杯である。胎土は粗く、器壁は厚い。灰白色を呈する。

S D390 (144~149)

144・145は須恵器無台杯である。144は他の無台杯に比してやや深く、胎土は粗く灰白色を呈する。底部ヘラ切り痕を残す。145の胎土は緻密で少量の白色礫が混入する他は精良である。焼成は軟質である。146~149は土師器甕である。いずれも非ロクロ成形のものである。

川跡 (150~216)

150~155は須恵器杯蓋である。151の口縁端部は巻き込みである。152の口縁端部は折り曲げて垂下させ、口縁部外縁に自然軸がかかる。153・154は肩部にロクロケズリを行い、153の端部は折り曲げ、154の端部断面形は三角である。155の端部は短く垂下させる。

156~165・167~169は須恵器有台杯である。法量は口径及び器高から4種に分けられる。胎土は大きく2種に分類でき、やや粗く白色礫を含む165・168と、緻密で白色粒子を多く含むものに分けられる。168は外底面と、体部外面に墨書きを持つ。外底面には「X」の記号が、体部は破損しており一端のみが残る。169の外底面には「×」と見られる漆書きがある。

166・193は須恵器有台碗である。166は体部が内湾して立ち上がり、口縁部で外反する。高台は短く開く内端接地である。胎土は165に似る。193は外端接地の細く長い高台が外へ開きながら伸びる。

170~192は須恵器無台杯である。法量は1種で口径11~13cm、器高3cm前後である。器形は口縁部が大きく開くものが多い。墨書きは170・175・177・181が体部外面に「木」、171・191が体部外面に「禾？」、182が体部外面に「不」、176は体部外面に判読不能のものを持つ。174は外底

面に判読不能の、184は体部外面に「个」、192が外底面に「X」の墨書きを持つ。

194は有台壺の底部で太く開く高台が付く。外底面に黒色の付着物が厚く付く。195・196は広口瓶である。口縁端部は外側に凹みを持つ面を取る。197は甕もしくは瓶類の口縁部である。口縁部に自然釉がかかる。

198・199は横瓶である。198は外面に擬格子叩き痕、内面に同心円当具痕が残る。閉塞部は粘土板を外面より張り付け、内面の接合痕が明瞭残る。外面接合部は丁寧なロクロナデにより消される。199は外面に擬格子叩目、内面に同心円当具痕が残る。外面閉塞部の近くにナデを施し、内面閉塞部付近には布の圧痕が残る。200・201は横瓶の体部破片と見られる。200の外面は擬格子叩目、内面に平行当具痕、201の外面は平行叩目、内面には同心円当具痕が残る。202は甕の体部破片で外面に擬格子叩目、内面に同心円当具痕が残る。

203～206は土師器甕である。203は端部外面に面を取り、口縁部内面に炭化物が強く付着する。204は口縁端部を内側に巻き込んで収める。205は口縁部が内湾して開き、端部外面に面を持つ。206は甕の底部で、平底で調整はロクロナデである。

207～211は土師器鍋である。211の外面体部下半に平行叩目が残る。外面体部に煤が強く付き、内面は頸部より下が変色する。

212は甕の支脚である。外面に粘土積み上げ痕が残る。213は土錘である。全長10.3cm、幅3.3cmを測る。棒状工具に粘土を巻き付けて作られたと見られる。外面は指頭圧痕により凹凸が目立つ。

214は曲げ物の底部である。直径16cm、厚さ1cmを測る。215・216は槌状の木製品である。加工痕は確認できない。

包含層出土遺物

217～234は須恵器杯蓋である。217～219・225・233は外面頂部にロクロケズリを行う。

235～248は須恵器有台杯である。235は還元が不十分で褐色を呈する。243は内底面に自然釉がかかる。

249～280は須恵器無台杯である。形態から口縁部が大きく開きやや身の浅いものと、口縁部の開きが小さく深めのものに分けられるが、法量はそれほど変わらない。277は外底面及び底部と体部の境にロクロケズリを行う。269・280は体部外面に「木?」、279は外底面に「千」、278は外底面に「X」墨書きがある。

281・285は須恵器有台碗である。281は細く高い高台が付く。285は口縁部が内湾して收まり、やや高めの高台が付く。

282～284は有台杯である。口径に対し底径が大きく、口縁部が外反する。

286は須恵器無台碗である。底部は回転糸切り無調整である。体部は内湾して立ち上がる。

287は土師器有台杯である。低く内端接地の高台が付く。

288～291は土師器無台杯である。いずれも口縁部は直立気味に立ち上がる。

292～294は土師器無台碗である。292は回転糸切り痕を明瞭に残す。293は口縁部が外反する。294は内面に黒色処理を施す。

295は灰釉陶器の有台碗である。外底面に回転糸切り痕を残し、内面に淡緑色の灰釉をハケ塗りする。高台は丸味を帯びた三日月高台である。

296～300は壺蓋である。296・297は擬宝珠の、298はボタン状のつまみが付く。298の口縁端部は、外面に面をもつ。

301・302は短頸壺でいずれも口縁端部を丸く収める。

303～305は有台壺の底部である。303・304の高台は太く外端接地である。305の体部は球形に張り外面に横方向のヘラケズリを行う。内底面には指頃圧痕が残る。

306～308は長頸瓶である。307は頸部中位に2条の沈線が巡り、口縁端部は尖り気味に收める。308は口縁部が大きく抜がり、端部外面に面を持つ。

309～311は須恵器横瓶である。309は外面に擬格子叩目、310は内面に同心円当具痕が、311は外面に擬格子叩目が、内面に平行の木目が目立つ同心円当具痕が付く。

312は須恵器鉢である。体部が大きく開き、口縁部で屈曲して端部に面を持つ。口径27cmを測る。

313～320・322～331は須恵器甕である。313の外面叩目は擬格子、内面当具痕は平行である。315は還元焼成が不完全で軟質である。外面は平行叩き後ほぼ全体にカキメを施す。319は口縁部外面に波状文を施す。320は口縁部外面に2段の沈線を施した後波状文を2段巡らす。

321は須恵器鉢の底部である。外面ヘラケズリ、内面にハケ状工具によるナデを行う。

332～353は土師器甕である。多くは表面が劣化・摩滅しており調整は不明である。333・337は外面にタテハケ、内面にヨコハケを行う。347は体部外面にタテハケを行い、外面体部下半に煤が強く付く。

354～359は土師器鍋である。いずれもロクロ成形と見られる。

360～362は土師器杯である。360は口縁部にヨコナデ、体部下半及び底部に不定方向のヘラケズリを行う。口縁部は内湾して収まる。362は口縁部が外反する。

363・364は土師器高杯の脚部である。いずれもやや太めの脚柱部から外反しながら裾に至る。

365は輪の羽口である。孔の径は約2.5cm、胎土に砂粒が多く混ざる。

366～372は壺の支脚である。いずれも粗雑な調整で、粘土紐積み上げ痕が顕著に残る。すべて、被熱により外面が劣化している。

374は磨製石斧である。刃部幅3.6cm、全長5.3cm、厚さ1.1cmを測る。石材は蛇紋岩である。

375は珠洲焼きの拂り鉢である。口縁部に波状文を施す。

376は古錢で、「淳化元寶」である。

377～405は鉄滓である。いずれも包含層の上部から出土した。

ま と め

井ノ町遺跡は刈羽郡西山町大字浜忠字井ノ町に所在する。遺跡は西山丘陵の構造線から海岸へ派生する支尾根の裾、二位殿川の北側に位置する。現況は水田で、標高は約11mである。遺跡は県営圃場整備事業浜忠地区に伴う分布調査によって発見され、工事に先立って発掘調査をおこなった。発掘調査面積は約2,500m²である。検出した遺構・遺物は奈良・平安時代を中心となる。

奈良時代 当期のものと明確に捉えられる遺構は確認できない。遺物は包含層及び平安時代の遺構に混入して出土した。土師器杯・高杯などはミガキ調整を行わず、ナデもしくはヘラ削り調整で仕上げられる。土師器甕は非ロクロ成形で、外面にハケメやヘラ削りを施す。須恵器では有台杯・長頸瓶などがみられる。有台杯は内底面に仕上げナデがあり、外底面にヘラ削りを行うものもある。時期は8世紀前半頃と考えられる。

平安時代 当期のものと捉えられる遺構には掘立柱建物、土坑、溝、川跡などがある。掘立柱建物のうちSB1・2・3・4・5・8の柱穴から平安時代の遺物が出土している。SB1の柱穴は一辺約1mの方形という奈良・平安時代の特徴的なものである。SB2はSB1の柱穴を彫り込んで建てられており、規模もほぼ同様なことから、ほぼ同位置に立て替えられたものとみられる。これらの建物のすぐ東には遺跡を貫く川跡がある。下流は現二位殿川へ通じ、海へ出られたとみられる。上流は北側の丘陵側の入り組んだ谷に通じる。遺跡の包含層や若干の遺構から鞆の羽口や鉄滓などが出土することから、現在把握していない製鉄遺跡が存在し、この谷の斜面などで鉄生産が行われ、その遺物が流出してきたのではないかと考える。

出土土器類には須恵器・土師器・灰釉陶器がある。須恵器の多くは佐渡小泊窯産のものである。遺物の出土量が多い遺構ではSK12・SK272・SK338・川跡が挙げられる。SK12の小泊窯産須恵器無台杯は口径に対して、底径が比較的大きく口縁部の開きはそれほど大きくないうものがほとんどである。これは小泊窯産の中でも古相のものである。これに比べSK272・SK338の須恵器無台杯には底径が小さく口縁部が大きく開くものが見られ、SK12より新しい様相が伺える。また、川跡出土の遺物は他の遺構より時期差を考慮する必要はあるが、無台杯は口縁部の開きが大きいものが多く見られる。包含層から出土した灰釉陶器は三日月高台の外面下半の稜は不明確で、9世紀後半から10世紀前半頃のものとみられる。墨書き土器は13点あり、体部外面に「木」「禾」「千」などが書かれているが、その意味・目的は不明である。

これらのことから、遺跡は8世紀前半・9世紀前半から10世紀初頭前後頃まで存続したと考える。また、北側の丘陵における鉄生産との関連が想定できるが、今後の調査の課題である。

引用・参考文献

- 柏崎市史編さん委員会 1983 『柏崎市史資料集 地質』
- 春日真実 1994 「越後における8世紀中葉の画期について」『北陸古代土器研究第4号』
- 春日真実 1997 「越後・佐渡における9世紀中葉の画期」『北陸古代土器研究第6号』
- 春日真実 1999 「第2節 土器編年と地域性」『新潟県の考古学』高志書院
- 刈羽村教育委員会 1995 『枯木A遺跡』
- 刈羽村教育委員会 1998 『払川・山ノ脇遺跡』
- 刈羽村教育委員会 1999 『払川遺跡』
- 斎藤孝正・後藤建一 1995 『須恵器集成図録 第3巻 東日本編I』
- 坂井秀弥・鶴間正昭・春日真実 1991 「佐渡の須恵器」『新潟考古』
- 品田高志 1994 「古代三嶋郡と古代土器の様相—柏崎平野における古代史理解に向けて—」『柏崎市立博物館報No.8』
- 新潟県教育委員会 1979 『狐山塚群』
- 新潟県教育委員会 1982 『尾野内遺跡 芦ヶ崎砦跡』
- 新潟県教育委員会 1983 『内越遺跡』
- 新潟県教育委員会 1984 『今池遺跡・下新町遺跡・子安遺跡』
- 新潟県教育委員会 1989 『山三賀Ⅱ遺跡』
- 新潟県教育委員会 1994 『上越市春日・本田地区発掘調査報告書IV 一之口遺跡東地区』
- 新潟県考古学会 1999 『新潟県の考古学』高志書院
- 西山町 1963 『西山町史』
- 西山町 1970 『西山町の民俗と文化財』
- 西山町 1980 『続西山町史』
- 西山町教育委員会 1983 『高塩B遺跡発掘調査報告書』
- 西山町教育委員会 1985 『多岐ノ脇遺跡発掘調査報告書』
- 西山町教育委員会 1991 『二家・甲田城跡発掘調査報告書』
- 西山町教育委員会 1994 『野崎遺跡発掘調査報告書』

井ノ町遺跡出土遺物観察表

番	遺構	種類	種類	口径	直径	高さ	内径	現存 (mm)	調査	版土	焼成	色調	備考
1	SP174	SBI	直底型	無台杯	12.0	8.6	3.3	27.5	6.7	ヘラ切りナデ	黒色灰出し チャート	透光硬質	青灰
2	SP174	SBI	土師器	甕					3.0		青	浅黄褐	外表面・白隠内面コ ダ
3	SP172	SBI	直底型	杯-瓶	13.6				1.9	面端ケズリ		透光硬質	暗灰
4	SP172	SBI	直底型	有台杯	12.0				2.6			透光やや軟質	灰褐色
5	SP172	SBI	直底型	無台杯	12.0				4.7			透光硬質	青灰
6	SP172	SBI	直底型	瓶底	12.0				4.0			透光硬質	灰
7	SP172	SBI	土師器	甕					3.2			青	浅黄褐
8	SP172	SBI	土師器	甕	20.0							灰	浅黄褐
9	SP193	SBI	土師器	甕				6.4				青	帶
10	SP266	SBI	直底型	有台杯	14.2	7.2	5.9	41.5	2.0	ヘラ切りナデ		透光硬質	灰(青)
11	SP173	SBI	直										詳細は柱計測表に
12	SP193	SBI	直										詳細は柱計測表に
13	SP239	SBI	直										詳細は柱計測表に
14	SP241	SBI	直										詳細は柱計測表に
15	SP283	SBI	直										詳細は柱計測表に
16	SP284	SBI	直										詳細は柱計測表に
17	SP174	SBI	直										詳細は柱計測表に
18	SP280	SA1	直底型	有台杯		8.2				ヘラ切りナデ		透光硬質	青灰
19	SP280	SA1	直底型	無台杯	12.0			6.8				透光硬質	灰白
20	SP233	SBI	土師器	甕	16.0			3.5				青	浅黄褐
21	SP167	SBI	直底型	有台杯	12.0			3.9				透光硬質	青灰
22	SP291	SBI	直底型	甕	22.0			5.2	面端に面			透光硬質	灰白
23	SP292	SBI	直底型	甕	12.0			2.7	面端ケズリ			透光硬質	暗灰
24	SP287	SBI	土師器	甕	13.0	6.0	4.3	30.1	4.0	ヨロクロ	透	青	灰
25	SP287	SBI	土師器	甕	3.2			1.2				青	青灰
26	SP159	SBI	直底型	無台杯	12.0			6.5				透光硬質	灰
27	SP157	SBI	直										詳細は柱計測表に
28	SP268	SBI	直底型	無台杯	15.0			1.0				透光硬質	灰
29	SP294	SBI	直										詳細は柱計測表に
30	SP293	SBI	直										詳細は柱計測表に
31	SK12	直底型	杯-瓶	15.0				2.0				透光やや軟質	灰白
32	SK12	直底型	杯-瓶	15.0				3.5				透光硬質	明灰
33	SK12	直底型	有台杯	13.0				1.6				透光硬質	青灰
34	SK12	直底型	無台杯	11.6	7.5	3.3	27.6	23.0	ヘラ切り無調整		透光硬質	青灰	
35	SK12	直底型	無台杯	11.8	8.2	3.0	25.4	18.5	ヘラ切りナデ		透光硬質	青灰	
36	SK12	直底型	無台杯	12.0	8.0	3.0	25.0	5.5	ヘラ切りナデ		透光軟質	灰白	
37	SK12	直底型	無台杯	12.0				1.5				透光硬質	灰白
38	SK12	直底型	無台杯	12.2	8.9	3.3	27.0	14.5	ヘラ切り無調整		透光硬質	青灰	
39	SK12	直底型	無台杯	12.4	8.2	3.1	25.0	9.7	ヘラ切りナデ		透光硬質	灰	
40	SK12	直底型	無台杯	12.4				10.8				透光硬質	青灰
41	SK12	直底型	無台杯	12.6	8.0	3.2	25.1	11.1	ヘラ切りナデ		透光硬質	青灰	
42	SK12	直底型	無台杯	12.6	8.4	3.4	25.1	14.5	ヘラ切りナデ		透光硬質	明灰	
43	SK12	直底型	無台杯	12.6	8.0	3.4	27.0	15.3	ヘラ切り無調整		透光硬質	青灰	
44	SK12	直底型	無台杯	13.2	8.4	3.8	28.8	16.7	ヘラ切りナデ		透光軟質	灰白	
45	SK12	直底型	杯-瓶	13.0				3.0				透光硬質	青灰
46	SK12	直底型	杯-瓶	14.0				1.5				透光軟質	灰白
47	SK12	土師器	甕	13.4				9.0				透光	青
48	SK12	土師器	甕	14.0				2.7				透光	浅黄褐
49	SK12	土師器	甕	14.2				3.5				透光	浅黄褐
50	SK12	土師器	甕	14.2				7.4				透光	浅黄褐
51	SK12	直											詳細は柱計測表に
52	SP389	直											詳細は柱計測表に
53	SK71	土師器	甕	16.0				3.0	另一腹ハケメ		良	穀	
54	SD551	直底型	無台杯	12.0				2.5				透光軟質	灰
55	SD551	直底型	無台杯	12.0	7.0	2.6	21	7.0				透光硬質	青灰
56	SK79	土師器	瓶	12.4	6.4	5.6	2.5			チャート	良	透光	浅黄褐
57	SK272	直底型	杯-瓶	13.0				2.0	另一ケズリ		透光硬質	灰白	
58	SK272	直底型	杯-瓶	14.4				2.3	36.5		透光硬質	青灰	
59	SK272	直底型	無台杯	11.8	7.0	2.5	21.2	3.0	ヘラ切りナデ		透光硬質	青灰	
60	SK272	直底型	無台杯	12.0				5.0				透光硬質	青灰
61	SK272	直底型	無台杯	11.8	7.2	3.0	25.4	18.0	ヘラ切りナデ		透光硬質	青灰	
62	SK272	直底型	無台杯	12.2	7.6	3.0	24.6	22.5	ヘラ切りナデ		透光硬質	青灰白	
63	SK272	直底型	無台杯	13.0				1.7				透光硬質	青灰
64	SK272	直底型	無台杯	13.0				5.0				透光硬質	灰
65	SK272	直底型	無台杯	13.0				3.0				透光硬質	砂
66	SK272	直底型	無台杯	12.8	7.8	3.9	30.5	6.0	ヘラ切りナデ		透光硬質	灰白	
67	SK272	直底型	無台杯	12.8				7.8	ヘラ切りナデ		透光硬質	青灰	
68	SK272	直底型	長颈瓶									円筒	由自然落
69	SK272	直底型	甕						另一規格子 内一同心円 另一規格子 カギメ 内一同				円筒
70	SK272	直底型	甕					4.0					透光硬質
71	SD016	直底型	有台杯		9.2								透光硬質
72	SP160	土師器	甕	14.0				3.0					改善板 内外に埋
73	SP160	土師器	甕	15.0				3.0					
74	SP160	土師器	甕	17.0				4.0	另一腹ハケメ				
75	SK308	直底型	有台杯		7.4				ヘラ切りナデ				
76	SK309	直底型	無台杯		13.0			5.2					
77	SK308	直底型	無台杯		13.0								
78	SK308	木製品	桐物桶		16.4	9.6	6.0						
79	SK340	直底型	無台杯	13.0				1.3					
80	SP27	土師器	甕					円筒形					

No	地點	植物	類型	形態	口徑	底座	高さ	出芽	残存 (x/%)	測量	地土	塊成	色調	備考	
81	SP54	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	13.0				2.0		灌木硬質	灰			
82	SP125	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性			7.0			ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰			
83	SP127	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	12.0				3.0		灌木硬質	灰			
84	SK129	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性						外一ハケメ 内一同心円	灌木硬質	青灰			
86	SP153		根											詳細注記計測表に	
87	SP159		根											詳細注記計測表に	
88	SP165		根											詳細注記計測表に	
89	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	14.0		2.7		19.8	ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰			
90	SK239	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	12.0				9.0		灌木硬質	灰			
91	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	13.4	6.8	5.6	41.8	2.0	ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰			
92	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	15.0				5.0		灌木硬質	灰			
93	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	15.0				3.0		灌木硬質	灰			
94	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	11.5	7.6	5.0	25.4	1.6	ヘラ切りナデ	海綿骨質	暗灰・秋質	灰白	口縫部に多くの付着	
95	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	11.5	7.0	2.0	24.6	30.5	ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰		口縫部に疣	
96	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	11.5	7.0	3.0	25.4	11.9	ヘラ切り無葉型	灌木硬質	灰		口縫部に疣	
97	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	12.0	6.5	3.1	25.8	15.8	ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰			
98	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	12.0	7.1	2.0	23.3	8.3	ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰			
99	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	12.5	7.6	3.0	24.2	29.3	ヘラ切り無葉型	灌木硬質	青灰			
100	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	12.4	7.1	2.0	22.6	10.6	ヘラ切りナデ	灌木硬質	青灰			
101	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	13.0	7.8	2.6	23.2	14.0	ヘラ切り無葉型	灌木硬質	灰			
102	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	12.5	7.6	2.6	22.7	12.8	ヘラ切りナデ	灌木硬質	青灰		口縫部に少々付着	
103	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	13.0				5.0		灌木硬質	青灰			
104	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性						另一ハケメ 内一平行	灌木硬質	明青灰			
105	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性					1.9		灌木硬質	暗灰			
106	SK238	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性							灌木硬質	青灰			
107	SP141	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	12.0				2.2		灌木硬質	青灰		詳細注記計測表に	
108	SP141	土間蓼	匍匐性	匍匐性					6.6		灌木硬質	灰		外正面	
109	SP141	土間蓼	匍匐性	匍匐性							灌木硬質	灰			
110	SP141	土間蓼	匍匐性	匍匐性							灌木硬質	灰			
111	SP147	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性						外一側面子・カキメ 内一斜	灌木硬質	灰			
112	SP166	土間蓼	匍匐性	匍匐性	12.0				5.0		灌木硬質	灰			
113	SP174	SB1 乳毛蓼	有台形	有台形	13.0				3.4		灌木硬質	青灰			
114	SP192	SB1 乳毛蓼	有台形	有台形					8.0	ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰白(黄)			
115	SP168	土間蓼	匍匐性	匍匐性	18.0				2.0		灌木硬質	灰			
116	SP200	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	14.0				2.8		灌木硬質	灰白			
117	SK225	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性			7.6				灌木硬質	青灰			
118	SK225	乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	12.0	7.0	2.6	23.3	3.2	ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰		口縫部に瘤	
119	SP249	SB1 乳毛蓼	杯葉	杯葉	12.0				3.0	頭頂ヶズミ	灌木硬質	灰			
120	SD255	乳毛蓼	有台形	有台形	11.8	7.4	2.7	31.4	32.0	ヘラ切りナデ	灌木硬質	暗青灰			
121	SD255	土間蓼	匍匐性	匍匐性	48.0					外一側面子・カキメ 内一日経記録	灌木・クリート 鋼	浅黄緑			
122	SP277	SB1 乳毛蓼	無台形	無台形	13.0				4.6		灌木軟質	灰			
123	SP292	土間蓼	葉	葉			4.0				灌木	根			
124	SP266	土間蓼	葉	葉			3.0				灌木	根			
125	SP284	SB1 乳毛蓼	有台形	有台形	15.0				1.0		灌木	明青灰			
126	SP284	SB1 乳毛蓼	匍匐性	匍匐性	13.6					外一側面子・カキメ 内一斜	灌木や軟質	灰白			
127	SP284	SB1 乳毛蓼	無台形	無台形	12.0				2.0		灌木軟質	灰白			
128	SP284	SB1 乳毛蓼	無台形	無台形			8.0			ヘラ切りナデ	灌木軟質	灰白			
129	SP255	乳毛蓼	無台形	無台形	13.2	9.4	3.4	25.8	6.0	ヘラ切りナデ	灌木軟質	灰			
130	SP255	乳毛蓼	葉	葉						内另一沈澱	灌木軟質	暗灰			
131	SP285	乳毛蓼	葉	葉			16.0				灌木軟質	灰			
132	SP244	土間蓼	高杯	高杯			7.2			内另一・カキメ	灌木	根	浅黄緑		
133	SP242	土間蓼	高杯	高杯							灌木	根	浅黄緑		
134	SP206	乳毛蓼	有台形	有台形	13.0				2.1		細化軟質	灰黄褐色			
135	SP206	乳毛蓼	有台形	有台形	12.0				3.0		細化軟質	灰			
136	SK339	乳毛蓼	無台形	無台形	13.0	9.6	3.2	21.6	6.0	ヘラ切りナデ	白色細	灌木硬質	灰		
137	SP241	乳毛蓼	無台形	無台形	13.0				4.7		灌木硬質	灰			
138	SP241	乳毛蓼	無台形	無台形	13.0				4.5		深色硬質	青灰			
139	SP247	SB1 乳毛蓼	無台形	無台形	12.0	7.6	3.1	25.5	27.0	ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰			
140	SP267	SBS1 乳毛蓼	葉	葉			8.8			外一側面子	灌木	根	浅黄緑		
141	SP286	乳毛蓼	有台形	有台形	13.0	8.0	3.2	55.1	3.0	ヘラ切りナデ	灌木硬質	青灰			
142	SP286	乳毛蓼	有台形	有台形	14.0	8.0	6.0	42.9	13.4	ヘラ切りナデ	灌木硬質	灰白			
143	SP287	乳毛蓼	葉	葉			9.0				灌木硬質	灰白			
144	SD260	乳毛蓼	無台形	無台形	12.6	8.0	3.9	28.7	12.2	ヘラ切り無葉型 外一底部外 壁ヶズミ	灌木や軟質	灰白			
145	SI309	土間蓼	無台形	無台形	11.0				3.1		灌木軟質	灰白			
146	SD269	土間蓼	葉	葉	16.0				2.0		灌木	根	浅黄緑		
147	SI309	土間蓼	葉	葉	20.0				4.5		灌木	根	浅黄緑		
148	SI309	土間蓼	葉	葉	19.0				1.0		灌木	根	浅黄緑		
149	SD290	乳毛蓼	葉	葉			5.0				灌木	根	浅黄緑		
150	H1	乳毛蓼	杯葉	杯葉						ヘラ切りナデ	無色吹出	深足硬質	灰		
151	H1	乳毛蓼	杯葉	杯葉	13.0		2.6		14.5	ヘラ切りナデ	無色吹出	深足硬質	灰(白)		
152	H1	乳毛蓼	杯葉	杯葉					4.4		無色吹出	深足硬質	灰(白)	外縁に自然剥	
153	H1	乳毛蓼	杯葉	杯葉	14.0				2.0	頭頂ヶズミ	無色吹出	深足硬質	灰		
154	H1	乳毛蓼	杯葉	杯葉	14.0				7.4	ヘラ切りナデ 前頭ヶズミ	無色吹出	深足硬質	青灰		
155	H1	乳毛蓼	杯葉	杯葉	16.0				5.2	ヘラ切りナデ	無色吹出	深足硬質	灰白		
156	H1	乳毛蓼	有台形	有台形	9.0	5.4	4.0	41.7	6.0	ヘラ切りナデ	無色吹出	深足硬質	灰		
157	H1	乳毛蓼	有台形	有台形	9.8	6.4	5.1	32.0	0.1	ヘラ切りナデ	無色吹出	深足硬質	灰		
158	H1	乳毛蓼	有台形	有台形	11.0	6.6	5.1	46.4	10.3	ヘラ切りナデ	無色吹出	深足硬質	灰		

No.	造形	漆物	種類	縦幅	横幅	11径	直徑	部高	脚数	残存 X/30	調査	附土	成城	色調	備考
159	川	漆忠器	有台杯	12.8	8.8	3.7	29.9	1.2	ヘラ切りナダ	漆元硬質	明青灰				
160	川	漆忠器	有台杯	13.0				3.5			漆元硬質	灰			
161	川	漆忠器	有台杯	13.0	7.6	6.2	47.7	9.6	ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰				
162	川	漆忠器	有台杯	13.0	7.8	6.2	47.7	9.6	ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰				
163	川	漆忠器	有台杯	11.6	7.4	5.5	36.0	3.6	ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰				
164	川	漆忠器	有台杯	14.0				4.2			白色糊	漆元硬質	黄灰		
165	川	漆忠器	有台杯	15.8	10.0	5.2	32.9	3.1	ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰白				
166	川	漆忠器	有台杯	16.6	10.2	4.7	25.3	2.3	ヘラ切りナダ	墨色吹出	漆元硬質	灰			
167	川	漆忠器	有台杯		2.0				ヘラ切りナダ	漆元硬質	黄灰				
168	川	漆忠器	有台杯		3.0				ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰白				外観面及び体部外面に 墨色
169	川	漆忠器	有台杯		2.4				ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰				外観面に墨書き
170	川	漆忠器	無台杯	11.0				3.6			漆元硬質	青灰			体部外面に墨書き「木」
171	川	漆忠器	無台杯	11.0				3.2			漆元硬質	青灰			体部外面に墨書き 「木」?
172	川	漆忠器	無台杯	11.0	7.4	3.1	28.2	16.0	ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰				
173	川	漆忠器	無台杯	11.8	7.6	3.0	25.5	15.6	ヘラ切りナダ	墨色吹出	漆元硬質	青灰			
174	川	漆忠器	無台杯	11.6	7.6	3.9	33.1	19.5	ヘラ切りナダ	墨色吹出	漆元硬質	青灰			
175	川	漆忠器	無台杯	12.0				3.8			漆元硬質	灰			漆部外面に墨書き「木」
176	川	漆忠器	無台杯	12.0				4.1			漆元硬質	青灰			漆部外面に墨書き「木」
177	川	漆忠器	無台杯	12.0				3.5			漆元硬質	灰			漆部外面に墨書き「木」
178	川	漆忠器	無台杯	12.0	8.6	2.9	24.2	7.0	ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰				
179	川	漆忠器	無台杯	12.0	7.0	3.1	25.8	18.4	ヘラ切りナダ	漆元硬質	暗灰				
180	川	漆忠器	無台杯	12.0	2.6	3.1	25.8	5.2	ヘラ切りナダ	墨色吹出	漆元硬質	灰			
181	川	漆忠器	無台杯	12.0	6.8	3.0	25.0	16.0	ヘラ切りナダ	漆元硬質	青灰				体部外面に墨書き 「木」
182	川	漆忠器	無台杯	12.0	6.2	3.0	25.0	30.0	ヘラ切りナダ	墨色吹出	漆元硬質	青灰			体部外面に墨書き 「木」?
183	川	漆忠器	無台杯	12.0	7.2	3.1	25.8	7.1	ヘラ切りナダ	漆元硬質	青灰				
184	川	漆忠器	無台杯	12.0	8.4	3.3	27.5	4.4		漆元やや軟質	灰				漆部外面に墨書き
185	川	漆忠器	無台杯	12.2	6.6	2.9	25.8	17.7	ヘラ切りナダ	漆元硬質	青灰				
186	川	漆忠器	無台杯	12.4	6.6	2.9	25.4	9.0	ヘラ切りナダ	漆元硬質	青灰				
187	川	漆忠器	無台杯	12.4	7.4	2.9	25.4	6.2	ヘラ切りナダ	漆元硬質	青灰				
188	川	漆忠器	無台杯	12.4	7.8	3.0	22.0	12.0	ヘラ切りナダ	墨色吹出	漆元硬質	灰			
189	川	漆忠器	無台杯	12.6	6.8	2.9	23.0	17.0	ヘラ切りナダ	漆元硬質	青灰				
190	川	漆忠器	無台杯	12.6	8.0	3.0	25.8	4.5	ヘラ切り引いナダ	漆元硬質	青灰				
191	川	漆忠器	無台杯	13.0				3.5			漆元硬質	青灰			漆部外面に墨書き「木」
192	川	漆忠器	無台杯		8.2				ヘラ切りナダ	漆元やや軟質	灰				外底面に墨書き
193	川	漆忠器	有台碗		8.4					墨色吹出	漆元硬質	白			
194	川	漆忠器	漆		7.2						漆元硬質	白			外底面に黒糸付着物
195	川	漆忠器	瓶	12.0				6.2	赤一泣	漆元硬質	青灰				漆部外面に墨書き
196	川	漆忠器	瓶	15.0				1.0		墨色吹出	漆元硬質	灰			漆部外面に墨書き
197	川	漆忠器	桶瓶	22.0				3.0	赤一自然緑	漆元硬質	灰				
198	周	漆忠器	桶瓶						赤一開拓子印き 内一同心円	漆元硬質	灰				
199	周	漆忠器	桶瓶	9.4			14.5			漆元硬質	灰				
200	周	漆忠器	桶瓶						赤一開拓子印き 内一平行筋	漆元硬質	青灰				
201	周	漆忠器	甌						赤一平行筋 内一同心円相当	漆元硬質	灰白				
202	周	漆忠器	甌						赤一開拓子印き 内一同心円相当	漆元硬質	青灰				
203	周	土師器	甌	15.0			13.8			漆元貴賀 直	直				口沿部内面にコグ
204	周	土師器	甌							漆元貴賀 直	直				口沿部内面に露コグ
205	周	土師器	甌	18.0			3.0			漆元貴賀 直	直				
206	周	土師器	甌		6.6					漆元貴賀 直	直				
207	周	土師器	甌	32.0			1.8			漆元貴賀 直	直				
208	周	土師器	甌	32.0			1.8			漆元貴賀 直	直				
209	周	土師器	甌	31.0			1.3			漆元貴賀 直	直				
210	周	土師器	甌	35.0			2.7			漆元貴賀 直	直				
211	周	土師器	甌	34.0					赤一平行印き	漆元貴賀 直	直				
212	周	土製品	支脚	14.0					手根ね	漆元貴賀 直	直				
213	周	土製品	土鍵						手根ね	漆元貴賀 直	直				
214	周	木製品	曲物底												
215	周	木製品	研状製品												
216	周	木製品	研状製品												
217	周	漆忠器	甌						前部ケズリ	漆元硬質	暗青灰				
218	周	漆忠器	甌						底部ケズリ	漆元やや軟質	に赤い模				
219	周	漆忠器	甌						底部ケズリ	漆元硬質	灰				
220	周	漆忠器	甌						底部ケズリ	漆元硬質	灰				
221	周	漆忠器	甌						底部ケズリ	漆元硬質	灰				
222	周	漆忠器	甌	12.2		3.6	13.9	1.2	ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰白				
223	周	漆忠器	甌	13.0			9.2		ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰				
224	周	漆忠器	甌	13.0			2.2			漆元硬質	明青灰				
225	周	漆忠器	甌	13.0			3.5		ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰白				
226	周	漆忠器	甌	13.0			12.0		ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰				
227	周	漆忠器	甌	13.6		2.6	4.4		ヘラ切りナダ	漆元硬質	暗青灰				
228	周	漆忠器	甌	14.0			5.0		ヘラ切りナダ	漆元硬質	灰白				
229	周	漆忠器	甌	14.0			6.0			漆元硬質	灰				
230	周	漆忠器	甌	15.0			3.5			漆元硬質	灰				
231	周	漆忠器	甌	15.0			3.2			漆元硬質	灰				

番	電機	植物	飼料	口徑	底高	認高	指標	残存 (x/30)	調査	始上	端成	色調	種秀	
222	原忠源	糞便		15.0	3.1	12.6	ヘラ切りナデ		達元候質	灰白				
223	原忠源	糞便		16.0		11.1	頭部ケズリ		達元候質	灰				
224	原忠源	糞便		18.0			4.5	ヘラ切りナデ 内一上七ナチ	達元候質	灰				
225	原忠源	有台軸		9.6	6.8	4.7	40.0	7.0				細化セラ歓質	にぬい感	
226	原忠源	有台軸		10.6	7.8	3.5	34.0	16.5	ヘラ切りナデ 内一上七ナチ	達元候質	黑灰		237	
原忠源														
227	原忠源	有台軸		11.0	6.2	4.9	44.5	4.3	ヘラ切りナデ	達元候質	灰			
228	原忠源	有台軸		11.4	7.0	4.7	41.2	8.6	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
229	原忠源	有台軸		11.8	6.8	4.7	40.7	8.0		達元候質	青灰			
230	原忠源	有台軸		12.0	6.2	4.6	38.3	5.2	ヘラ切りナデ	達元候質	灰(青)			
231	原忠源	有台軸		12.4	5.8	3.9	31.5	5.2	ヘラ切りナデ	達元候質	灰			
232	原忠源	有台軸		12.8	5.0	3.8	29.7	2.5		達元候質	灰白			
233	原忠源	有台軸		12.8	5.7	4.1	32.0	5.6	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
234	原忠源	有台軸		13.0				1.7		達元候質	灰白			
235	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	黒色吹付	灰白			
236	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
237	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
238	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
239	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
240	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
241	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
242	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
243	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
244	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
245	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
246	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
247	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
248	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
249	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
250	原忠源	有台軸		13.6	7.4	6.0	44.1	4.4	ヘラ切りナデ	達元候質	灰白			
251	原忠源	有台軸		13.6	6.8	2.6	23.7	16.4	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
252	原忠源	有台軸		13.8	7.8	3.1	26.3	8.3	ヘラ切り黒西面	達元候質	暗青灰			
253	原忠源	有台軸		12.0					3.5	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰		
254	原忠源	有台軸		12.0	7.8	2.7	22.9	3.0		達元候質	青灰			
255	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.0	25.6	6.8		達元候質	青灰			
256	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.4	26.3	27.7	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
257	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.4	26.3	27.7	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
258	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.7	26.8	11.0	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
259	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.7	26.8	11.0	ヘラ切りナデ	達元候質	黑灰			
260	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.7	26.8	11.0	ヘラ切りナデ	達元候質	黑灰			
261	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.7	26.8	11.0	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
262	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.7	26.8	11.0	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
263	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.7	26.8	11.0	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
264	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.7	26.8	11.0	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
265	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.7	26.8	11.0	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
266	原忠源	有台軸		12.0	9.0	3.7	26.8	11.0	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
267	原忠源	有台軸		13.4	9.6	3.2	22.9	9.8	3.8 ヘラ切り回ナデ	達元候質	青灰			
268	原忠源	有台軸		12.8	10.5	2.8	21.5	4.5	3.8 ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
269	原忠源	有台軸		13.0				3.8		達元候質	青灰			
270	原忠源	有台軸		13.0	7.0	2.9	22.3	7.8	ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
271	原忠源	有台軸		13.0	8.2	3.1	23.8	5.0	5.0 ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
272	原忠源	有台軸		13.0	9.4	3.2	24.6	9.0	5.0 ヘラ切り黒西面	達元候質	青灰			
273	原忠源	有台軸		13.0	9.6	3.2	25.4	5.0	5.0 ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
274	原忠源	有台軸		12.6	9.2	3.2	25.4	5.7	5.7 ヘラ切りナデ	達元候質	青灰			
275	原忠源	有台軸		13.0	9.8	3.4	26.2	15.2	5.2 ヘラ切り無調整	達元候質	灰			
276	原忠源	有台軸		12.0	7.1	3.5	26.9	20.5	5.5 ヘラ切り回ナデ	達元候質	青灰			
277	原忠源	有台軸		13.4	9.0	3.7	27.6	2.6	5.5 ヘラ切リケズリ	達元候質	青灰			
278	原忠源	有台軸							5.5 ヘラ切リナデ	達元候質	青灰			
279	原忠源	有台軸							5.5 ヘラ切リナデ	達元候質	青灰			
280	原忠源	有台軸							5.5 ヘラ切リナデ	達元候質	青白			
281	原忠源	有台軸							6.0	達元候質	灰(△)			
282	原忠源	有台軸		13.6	9.0	3.9	29.7	9.2	5.2 ヘラ切リナデ	達元候質	灰			
283	原忠源	有台軸		17.0				4.2		達元候質	灰			
284	原忠源	有台軸		17.0	10.0	4.8	28.2	2.7		達元候質	灰白			
285	原忠源	有台軸		16.0	8.0	7.6	47.5	16.0		達元候質	灰白			
286	原忠源	有台軸						6.4	回転式ヘラ切リ無調整	達元候質	灰白			
287	原忠源	有台軸						8.1	5.0 ヘラ切リナデ	達元候質	灰			
288	原忠源	有台軸		12.0	8.8	3.5	29.2	1.7	5.5 ヘラ切リナデ	達元候質	灰			
289	原忠源	有台軸		13.0				3.0		達元候質	灰			
290	原忠源	有台軸		11.0	9.6	3.6	25.7	6.5		達元候質	灰			
291	原忠源	有台軸		9.0					5.5 ヘラ切リナデ	達元候質	灰			
292	原忠源	有台軸		5.0						5.0 ヘラ切リ無調整	達元候質	灰		
293	原忠源	有台軸		12.0	5.2	3.7	30.8	9.1	5.0 ヘラ切リナデ?	達元候質	灰			
294	原忠源	有台軸		13.0				4.0	内一ミガキ・黒色処理	達元候質	灰			
295	原忠源	有台軸		5.6						5.6 ヘラ切リ	灰白			
296	原忠源	漆									達元候質	灰		
297	原忠源	漆									達元候質	灰		
298	原忠源	漆		12.2	3.1	7.0	内一北方向ナデ		漆油粉料	達元候質	暗灰			
299	原忠源	漆		13.0		6.0				漆油粉料	灰白			
300	原忠源	漆		15.0		2.5	頭部ケズリ		漆油粉料	灰白				
301	原忠源	漆		12.0		4.0				漆油粉料	灰白			
302	原忠源	漆		12.6		6.5				漆油粉料	灰白			
303	原忠源	漆		8.3					外一体部下級ケズリ	達元候質	灰白			
304	原忠源	漆				8.2				達元候質	暗灰			
305	原忠源	漆				8.5				達元候質	灰白			
306	原忠源	漆							外一體部下級ケズリ	達元候質	灰白			
307	原忠源	漆		11.0					2.5 油包中位に 2 位の浅瀬	達元候質	暗灰			
308	原忠源	漆		15.2		11.0				達元候質	灰			
309	原忠源	漆		11.0		9.0	外一側面切引			達元候質	灰(青)			
310	原忠源	漆		11.6		12.0	内一同心円凹凸			達元候質	灰(青)			
311	原忠源	漆		10.6		7.5	外一腰格子き	内一同心圓		達元候質	青灰			
312	原忠源	漆		27.0		6.0				達元候質	灰			

No.	造構	建物	種類	断面	口径	底高	柱数	残存 (x/35)	調査	地土	地成	色調	備考	
312		壁塗型	便		14.0			5.0	第一-擬格子叩き 内-平行打目	還元硬質	暗オリーブ灰			
314		壁塗型	便		19.0			3.0		還元硬質	灰			
315		壁塗型	便		22.0			3.2	第一-平行叩き・カキメ 内-同心円内	還元硬質	灰			
316		壁塗型	便		22.0			2.5	第一-擬格子叩き 内-同心円内	還元硬質	灰(青)	壁内中央部化		
317		壁塗型	便						第二-擬格子叩き 内-同心円内	還元硬質	灰(暗)			
318		壁塗型	便						第三-同心円内	還元硬質	灰			
319		壁塗型	便		39.0				第四-波状文	還元硬質	灰			
320		壁塗型	便		60.2			1.8	第五-波状文・北端	還元硬質	灰			
321		壁塗型	便		39.0				第六-外ケズリ 内-ハケメ	還元セメント質	灰白			
322		壁塗型	便						第七-擬格子叩き 内-板打目	還元硬質	灰(青)			
323		壁塗型	便						第八-格子叩き 内-同心円内	還元硬質	灰			
324		壁塗型	便						第九-擬格子叩き 内-同心円内	還元硬質	灰			
325		壁塗型	便						第十-擬格子叩き 内-同心円内	還元硬質	灰			
326		壁塗型	便						第十一-擬格子叩き・劣化メ 内-同心円内	還元硬質	灰			
327		壁塗型	便						第十二-擬格子叩き 内-同心円内	還元硬質	灰			
328		壁塗型	便						第十三-擬格子叩き 内-同心円内	還元硬質	灰			
329		壁塗型	便						第十四-擬格子叩き 内-同心円内	還元硬質	灰			
330		壁塗型	便						第十五-擬格子叩き 内-同心円内	還元硬質	灰(青)			
331		壁塗型	便						第十六-擬格子叩き 内-同心円内	還元硬質	青灰			
332	土師器	便			11.0			9.0		骨	淡黄褐			
333	土師器	便			13.0			5.0	内-ヨコハケ	骨	骨			
334	土師器	便			13.0			3.8		骨	骨	はい褐色	口縁部内面にコダ	
335	土師器	便			12.0			15.0		骨	骨			
336	土師器	便			14.0			3.5		骨	淡黄褐			
337	土師器	便			16.0			1.2	外-タテハケ 内-ヨコハケ	骨	骨	口縁部内面にコダ		
338	土師器	便			16.0			1.3		骨	淡黄褐			
339	土師器	便			16.0			2.5		骨	骨	褐色		
340	土師器	便			18.0			3.6		骨	淡黄褐			
341	土師器	便			18.0			2.4		骨	骨	淡黄褐		
342	土師器	便			19.0			2.5		骨	骨	やや不良		
343	土師器	便			19.0			4.0		骨	骨			
344	土師器	便			20.0			3.1		骨	骨			
345	土師器	便			20.0			3.9		骨	骨			
346	土師器	便			19.0				外-タテハケ	骨	骨			
347	土師器	便			20.0			8.4	外-タテハケ	骨	骨		外面部下部に斑	
348	土師器	便			20.0			5.0		骨	骨			
349	土師器	便			22.0			2.2		骨	淡黄褐			
350	土師器	便			25.0			1.8		骨	淡黄褐			
351	土師器	便			28.0			2.1		骨	淡黄褐			
352	土師器	便						8.0		骨	骨			
353	土師器	便						6.0		骨	骨			
354	土師器	便							外-タテハケ	骨	骨		外面部に斑	
355	土師器	便						26.0	4.4	骨	骨		外面部に斑	
356	土師器	便						32.0	1.7	骨	骨			
357	土師器	便						32.0	10.3	骨	骨			
358	土師器	便						32.0	2.0	骨	骨			
359	土師器	便						32.0	2.0	骨	骨			
360	土師器	便						32.0	2.0	骨	骨			
361	土師器	便						32.0	2.8	骨	骨			
362	土師器	便						7.2	5.0	3.0	11.0	外-タテハケ	淡黄褐	
363	土師器	便						8.0		11.0	骨	淡黄褐		
364	土師器	便						18.0		2.9	骨	淡黄褐		
365	土師器	便							6.2		骨	淡黄褐		
366	土製品	便						8.4		骨	骨			
367	土製品	便							12.2	14.8	骨	骨	にい赤褐	
368	土製品	便							14.8		骨	骨		
369	土製品	便							12.0		骨	骨		
370	土製品	便							10.4		骨	骨		
371	土製品	便							12.0		骨	骨		
372	土製品	便							11.0		骨	骨		
373	土製品	便							11.7		骨	骨		
374	鉄製品	刀子										刀子		
375	石器	磨削石斧							2.8	2.7	日向断面直底式	海綿骨質	還元硬質	暗青灰
376	古物												「淳化元寶」生 990 ~	

井ノ町遺跡出土柱根観察表

No.	遺構番号	残存長	最大幅	最大厚	建物	備考
11	S P 173	51.5	29.7	19.0	S B - 1	
12	S P 193	62.0	23.3	25.0	S B - 1	
13	S P 230	36.4	22.3	23.5	S B - 1	
14	S P 241	50.2	27.0	20.7	S B - 1	
15	S P 283	69.2	22.5	22.7	S B - 1	
16	S P 284	58.8	24.5	24.4	S B - 1	
17	S P 174	53.1	25.3	21.5	S B - 1	
27	S P 137	33.8	16.7	14.0	S B - 6	
29	S P 294	14.6	10.8	8.2	S B - 5	
30	S P 293	18.3	7.5	8.4	S B - 5	
51	S K 12	26.2	15.1	13.7		
52	S P 389	88.9	21.1	16.7		
85	S P 153	23.3	12.2	11.0		
86	S P 39	27.0	11.2	11.0		
87	S P 48	17.1	8.6	7.5		
106	S K 338	40.5	14.6	13.6		

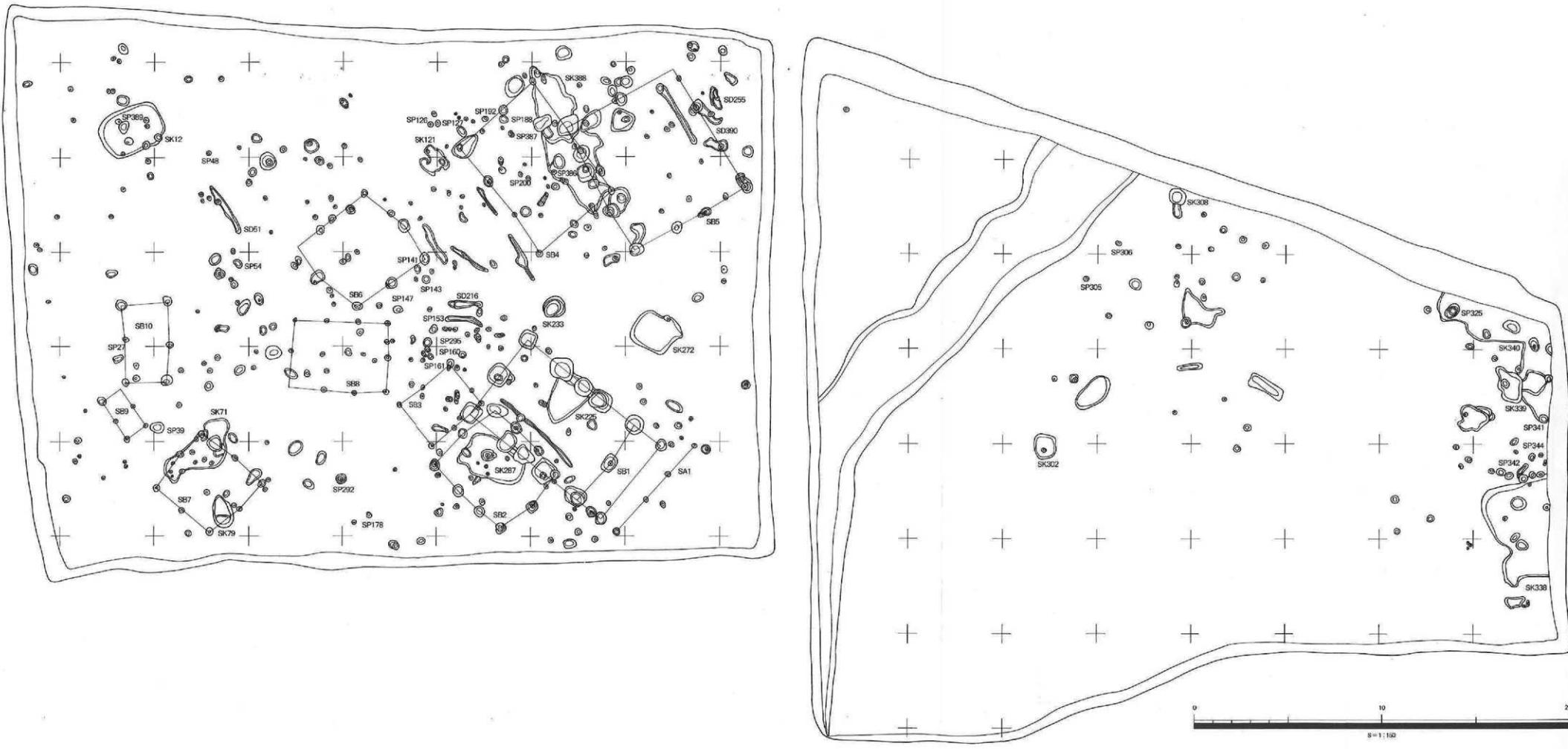
井ノ町遺跡掘建柱建物計測表

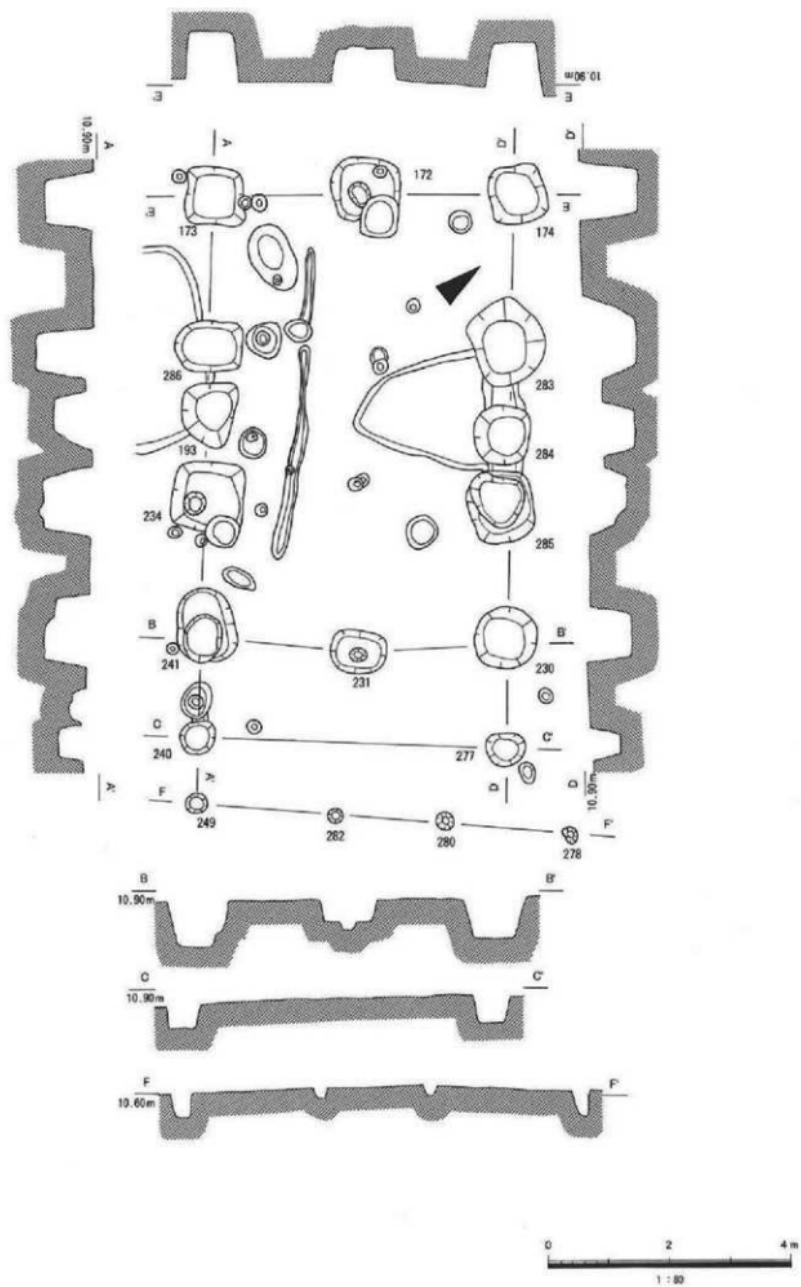
建物No.	間数	方位	規模 (m ²)	備考
S B 1	2 × 4	N - 52° - W	35.91	南東面に廻
S B 2	2 × 3	N - 45° - W	20.53	
S B 3	1 × 2	N - 38° - W	9.57	
S B 4	2 × 3	N - 37° - W	35.64	
S B 5	3 × 3	N - 30° - W	48.28	
S B 6	2 × 2	N - 44° - W	20.77	
S B 7	2 × 2	N - 50° - W	15.67	
S B 8	2 × 3	N - 10° - W	18.55	
S B 9	1 × 2	N - 6° - W	2.88	
S B 10	1 × 2	N - 36° - E	10.18	
S A 1	3	N - 41° - W		

報告書抄録

ふりがな	いのまちいせきはくつちょうさほうこくしょ						
書名	井ノ町遺跡発掘調査報告書						
副書名	県営は場整備事業浜忠地区に伴う発掘調査						
シリーズ名	西山町文化財調査報告書第6集						
編集者名	中島義人						
編集機関	西山町教育委員会						
所在地	〒949-4193 新潟県刈羽郡西山町大字池浦117-2						
発行年月日	2001年3月						
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北 緯	東 経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
いのまちいせき 井ノ町遺跡	新潟県刈羽郡西山町 大字浜忠字井ノ町	市町村 遺跡番号 15505	170	37 28 49	138 39 17 19981008 ～ 19981224	2,500	県営狙い手育成は 場整備事業浜忠地 区による
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項		
井ノ町遺跡	散布地	古代	掘建柱建物・土坑・溝・川跡等	土師器・須恵器・鉄滓・フイ ゴの羽口・柱・木製椀・木製 品 他	墨書き器・鉄生産 関連遺物が出土		

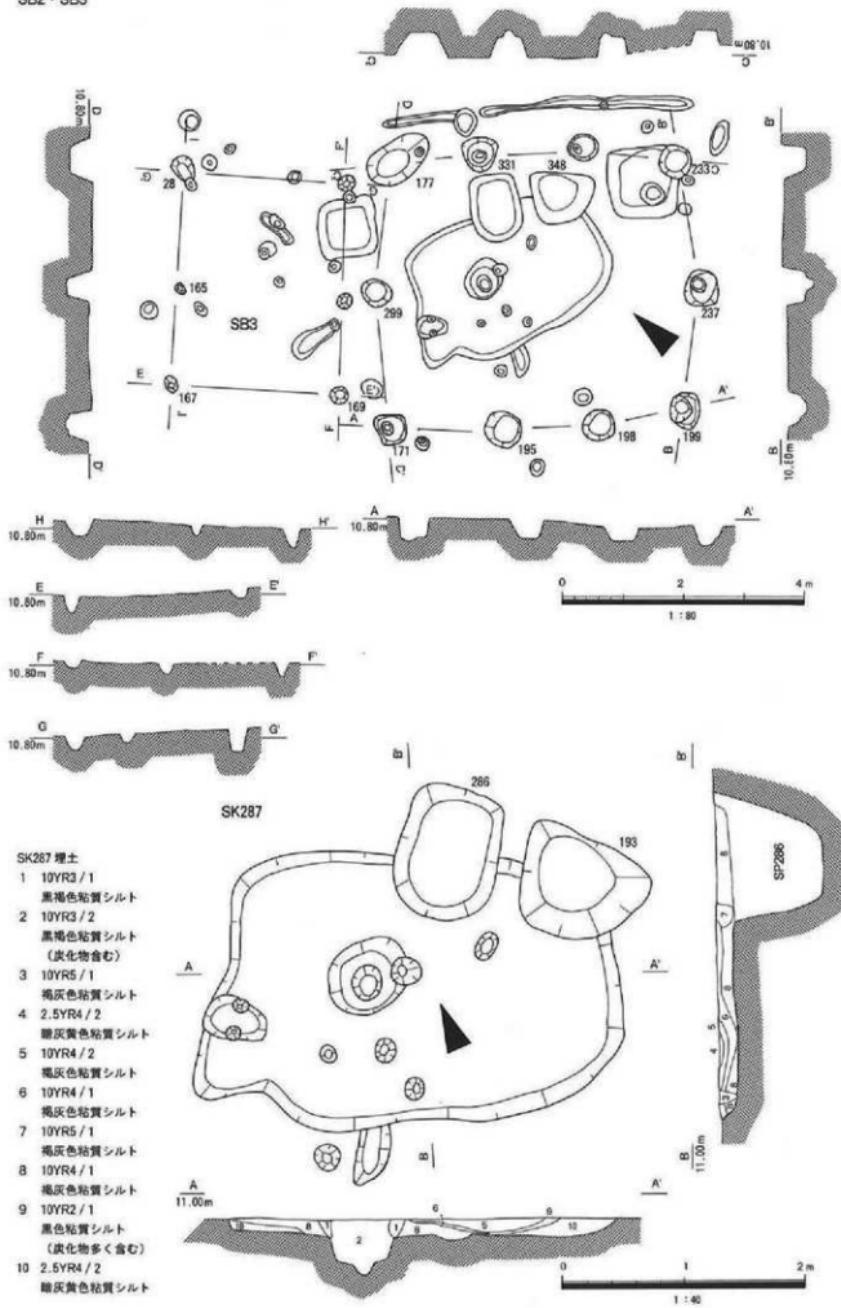
図 版



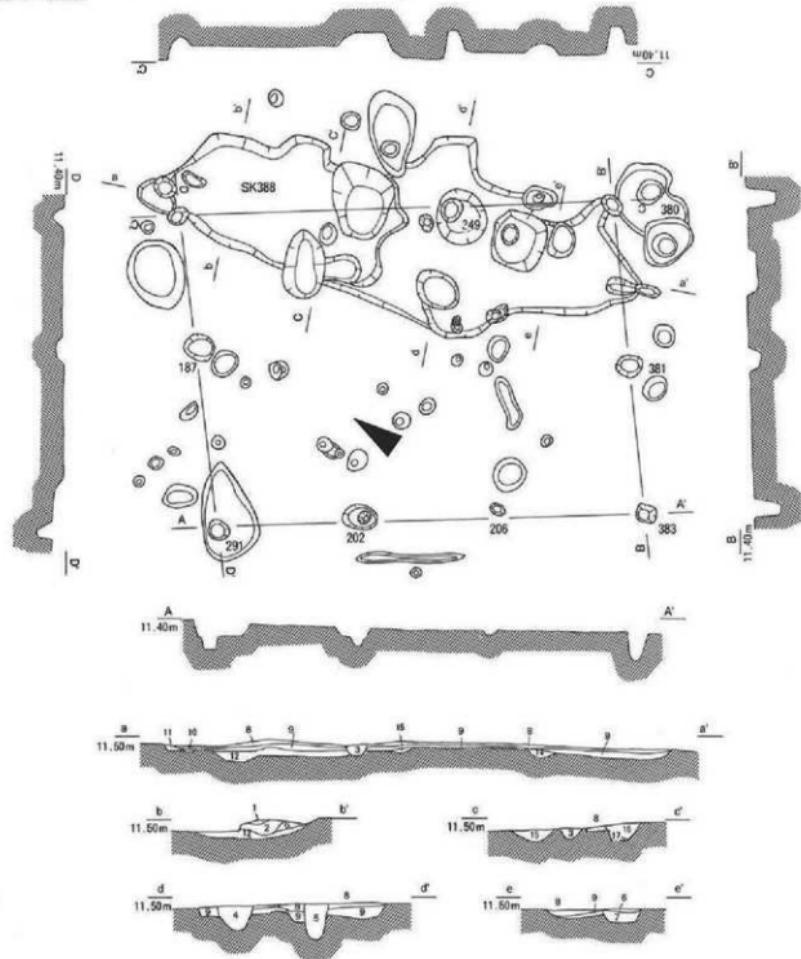


図版3

SB2・SB3



SB 4・SK388



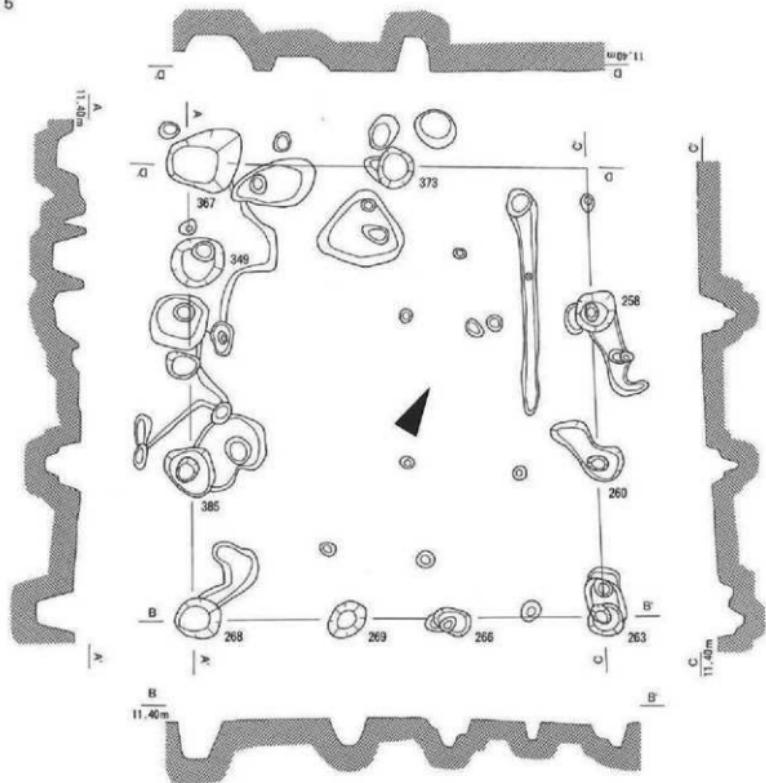
SK388 埋土

- | | |
|-------------------------------|-------------------------------|
| 1 N3 / 1 雜灰色シルト（炭化物多く含む） | 10 SB4 / 1 安静灰色粘質シルト |
| 2 10G5 / 1 緑灰色粘質シルト（炭化物少量含む） | 11 7.SYR5 / 4 にぶい褐色粘質シルト |
| 3 10BG2 / 1 青黒色粘質シルト（炭化物含む） | 12 10BG6 / 1 青灰色粘質シルト |
| 4 5BG5 / 1 青灰色粘質シルト（炭化物少量含む） | 13 5GY6 / 1 オリーブ灰色粘質シルト |
| 5 7.5Y6 / 1 灰色粘質シルト | 14 10Y8 / 1 灰色粘質シルト（炭化物少量含む） |
| 6 10BG7 / 1 明青灰色粘質シルト | 15 5BG4 / 1 暗青灰色粘質シルト |
| 7 5BG6 / 1 青灰色粘質シルト | 16 7.SYR5 / 1 橙灰色粘質シルト（炭化物含む） |
| 8 10YR4 / 1 棕灰色粘質シルト（炭化物少量含む） | 17 5BS / 1 青灰色粘質シルト（炭化物含む） |
| 9 10YR6 / 1 棕灰色粘質シルト（炭化物少量含む） | |

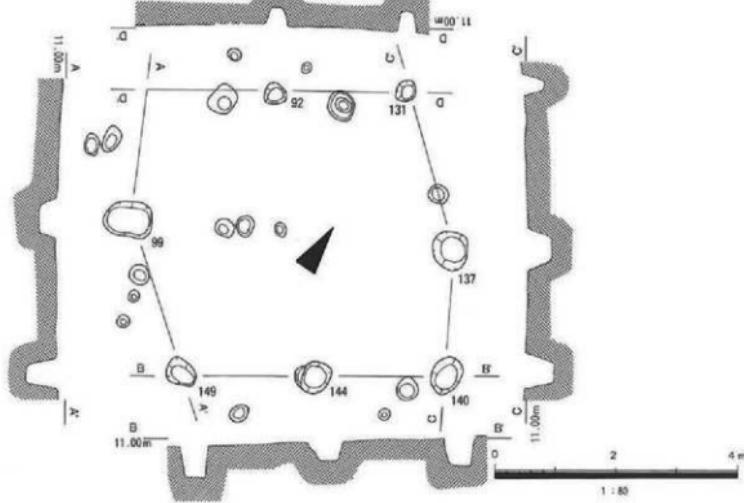


図版5

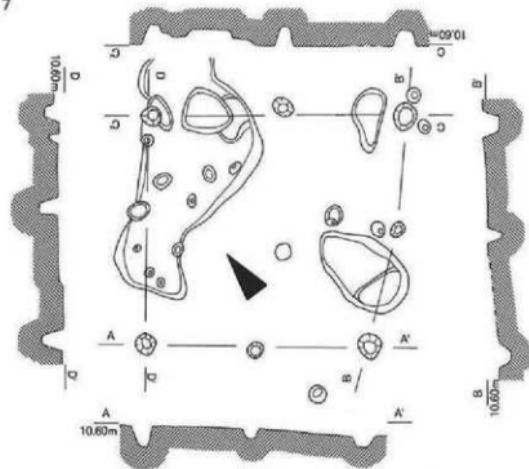
SB 5



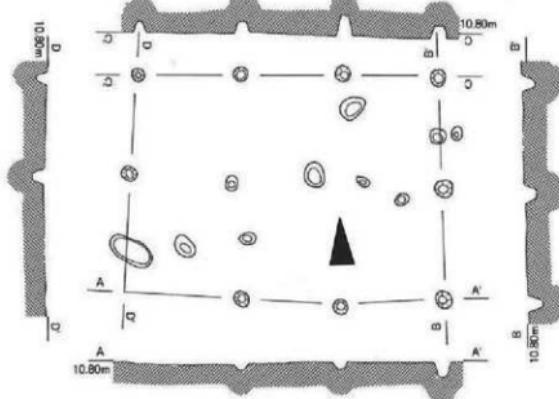
SB 6



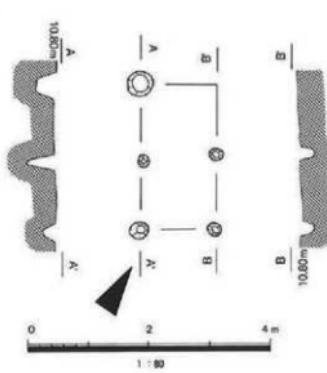
SB 7



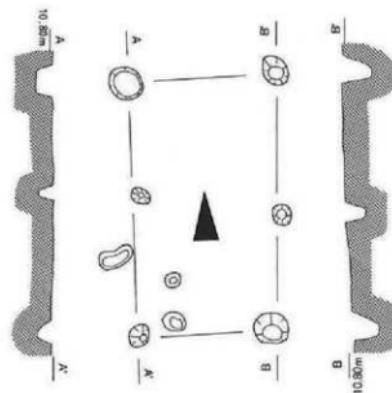
SB 8



SB 9

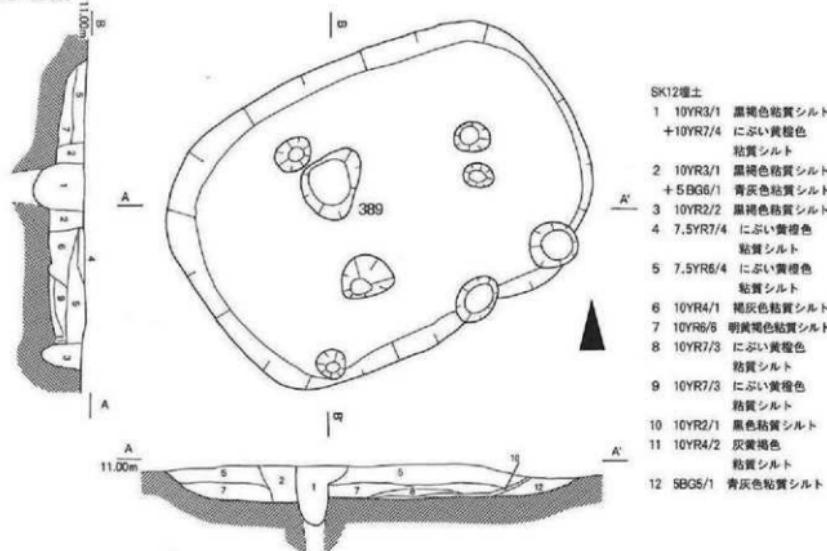


SB10

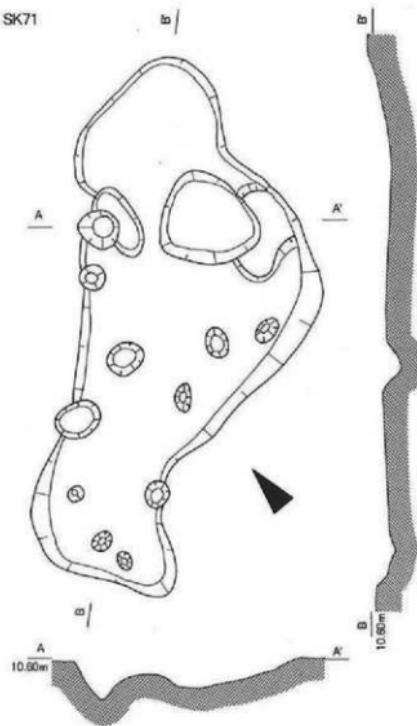


図版7

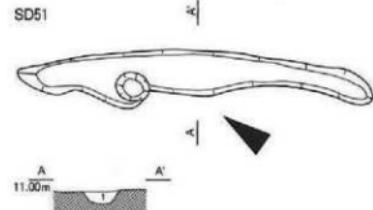
SK12・SP389



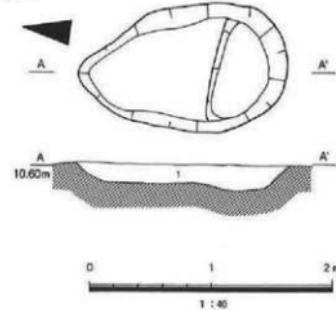
SK71



SD51

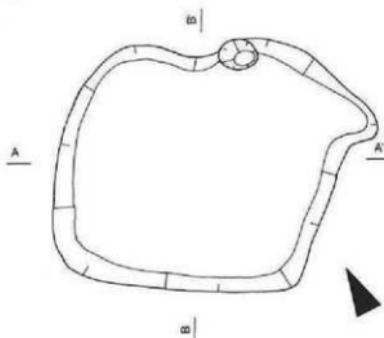


SK79



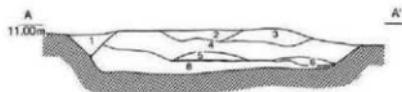
0 1 2 m
1 : 40

SK272

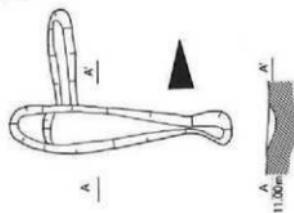


SK272埋土

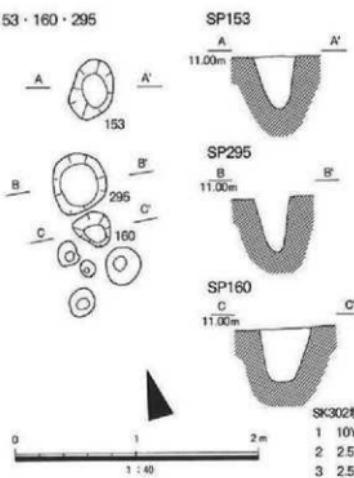
- 1 10BG2/1 青灰色粘質シルト
- 2 5B5/1 青灰色粘質シルト
+10YR3/1 黒褐色粘質シルト
- 3 2.5Y4/3 オリーブ褐色粘質シルト
- 4 2.5Y4/2 踏青黃褐色粘質シルト
- 5 10YR2/2 黒褐色粘質シルト
- 6 2.5Y3/2 黒褐色粘質シルト
- 7 10YR3/1 黒褐色粘質シルト
- 8 5B6/1 青灰色粘質シルト
+7.5YR7/3 にぶい黄色粘質シルト



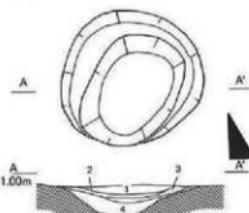
SD216



SP153・160・295



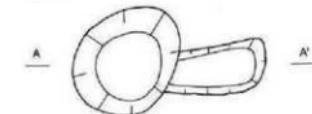
SK223



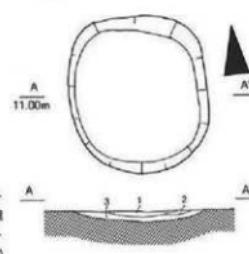
SK223埋土

- 1 2.5Y4/4 オリーブ褐色粘質シルト
- 2 10YR4/2 灰黄褐色粘質シルト（炭化物多く含む）
- 3 10YR2/1 黒色粘質シルト（炭化物多く含む）
- 4 10YR4/4 褐色粘質シルト

SK308



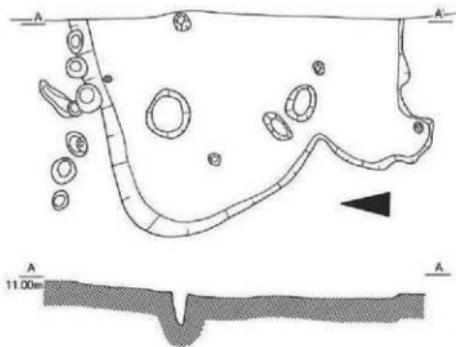
SK302



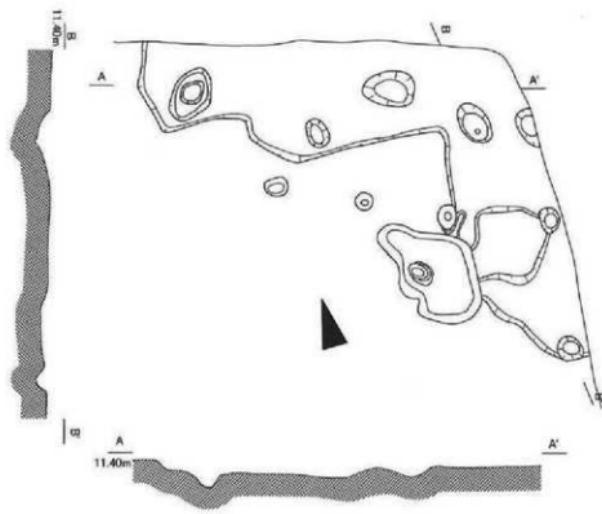
- 1 10YR7/6 明赤褐色粘質シルト
- 2 2.5Y5/8 明赤褐色佛粘土焼
- 3 2.5YR3/2 黑褐色粘質シルト（炭化物少量含む）

図版9

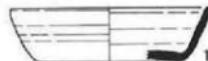
SK338



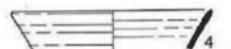
SK330



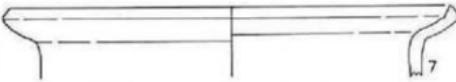
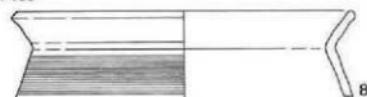
SB1・SP174



SP172



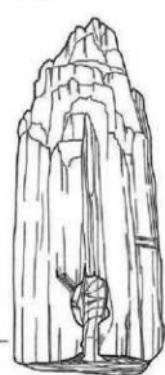
SP193



SP241



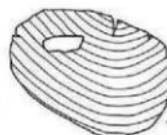
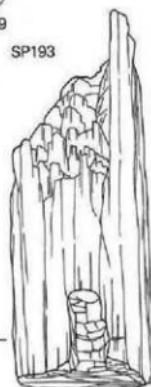
SP284



SP286



SP193



SP283



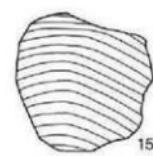
SP174



SA1 SP280



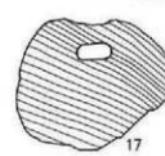
SP230



0 木製品 20cm

0

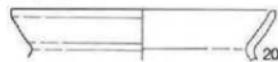
10cm



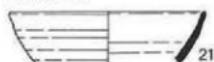
10cm

図版11

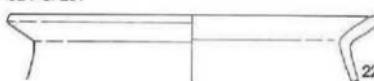
SB2 SP233



SB3 SP167



SB4 SP291



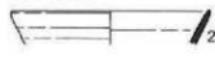
SP287



SB5 SP268



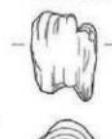
SB8 SP159



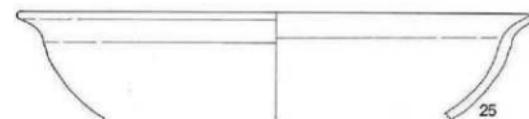
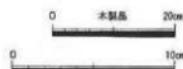
SB6 SP137



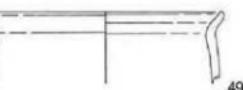
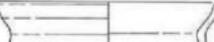
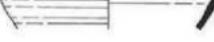
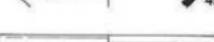
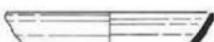
SB7 SP294



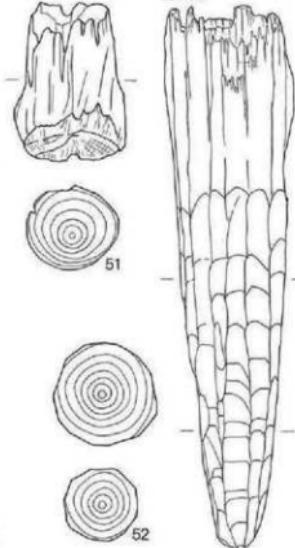
SP293



SK12



SP389



51

52

52

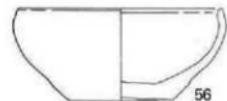
SK71



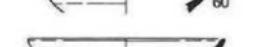
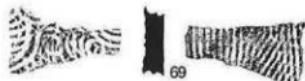
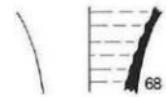
SD51



SK79



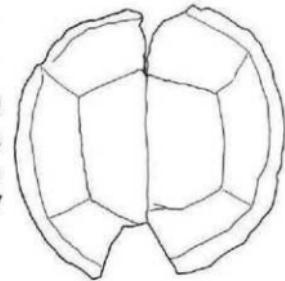
SK272



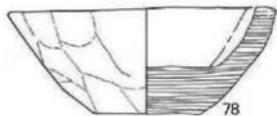
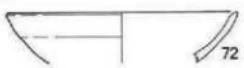
SD216



SK308



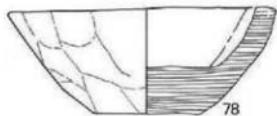
SP160



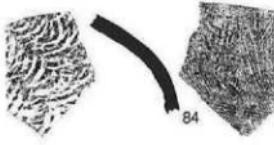
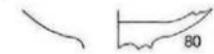
SK340



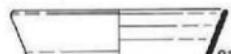
SP127



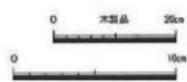
SP27



SP54



SP126



SP139

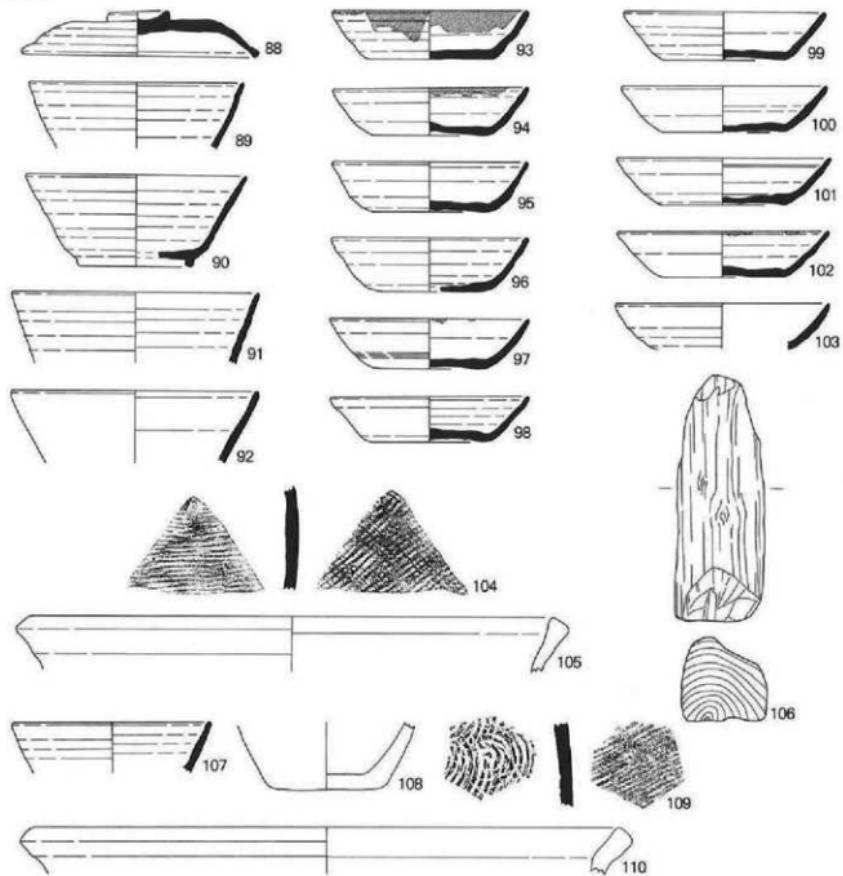


SP48



図版13

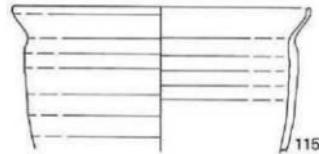
SK338



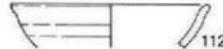
SP147



SP188



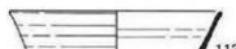
SP161



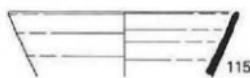
SP192



SP178

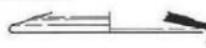


SP200



0 木製品 20cm 0 10cm

SB1 SP241



SD255



SB1 SP277



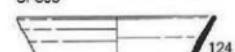
SP292



119

120

SP305



121

SP343

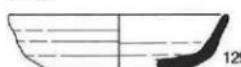


SB1 SP284



125

SP325



129

SP143



130

131

SP306



SD390



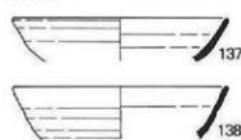
134

SK339



136

SP341



137

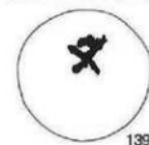
SB5 SP367



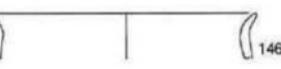
138



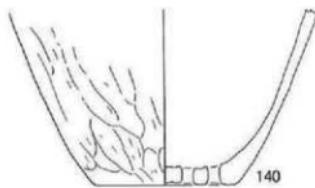
144



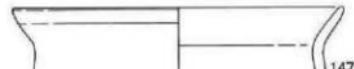
139



145



140



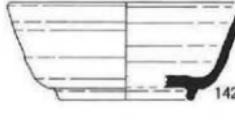
146

SP386



141

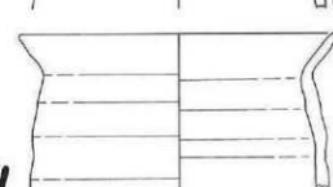
SP387



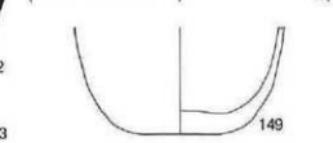
142



143



147



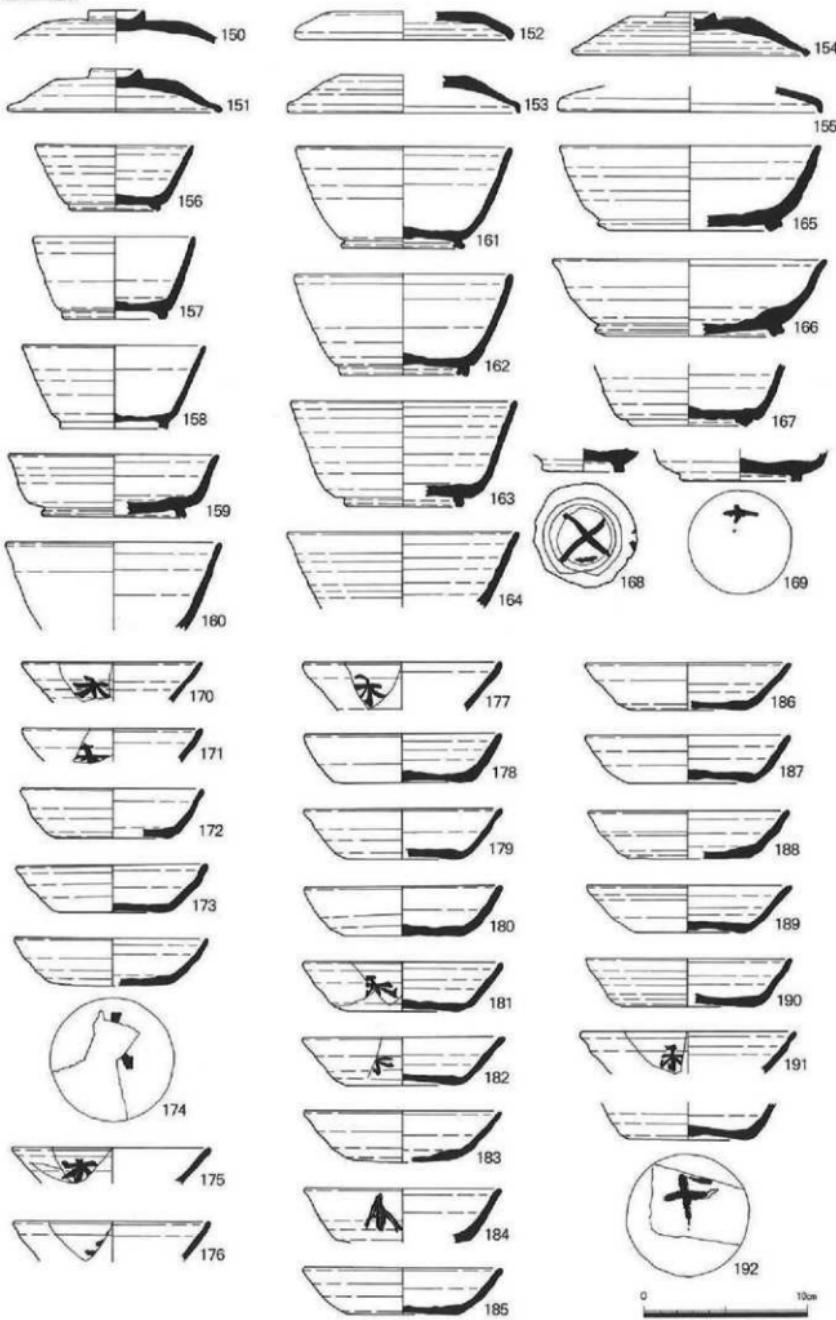
148

149



図版15

川跡出土遺物



0 10cm

川跡出土遺物



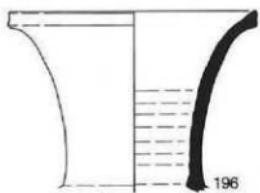
193



194



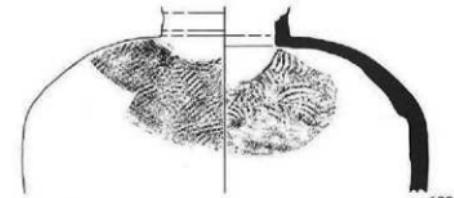
195



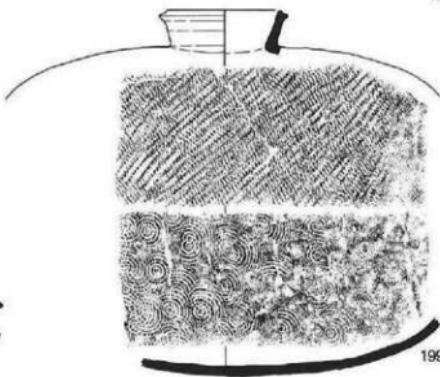
196



197



198



199



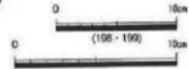
200



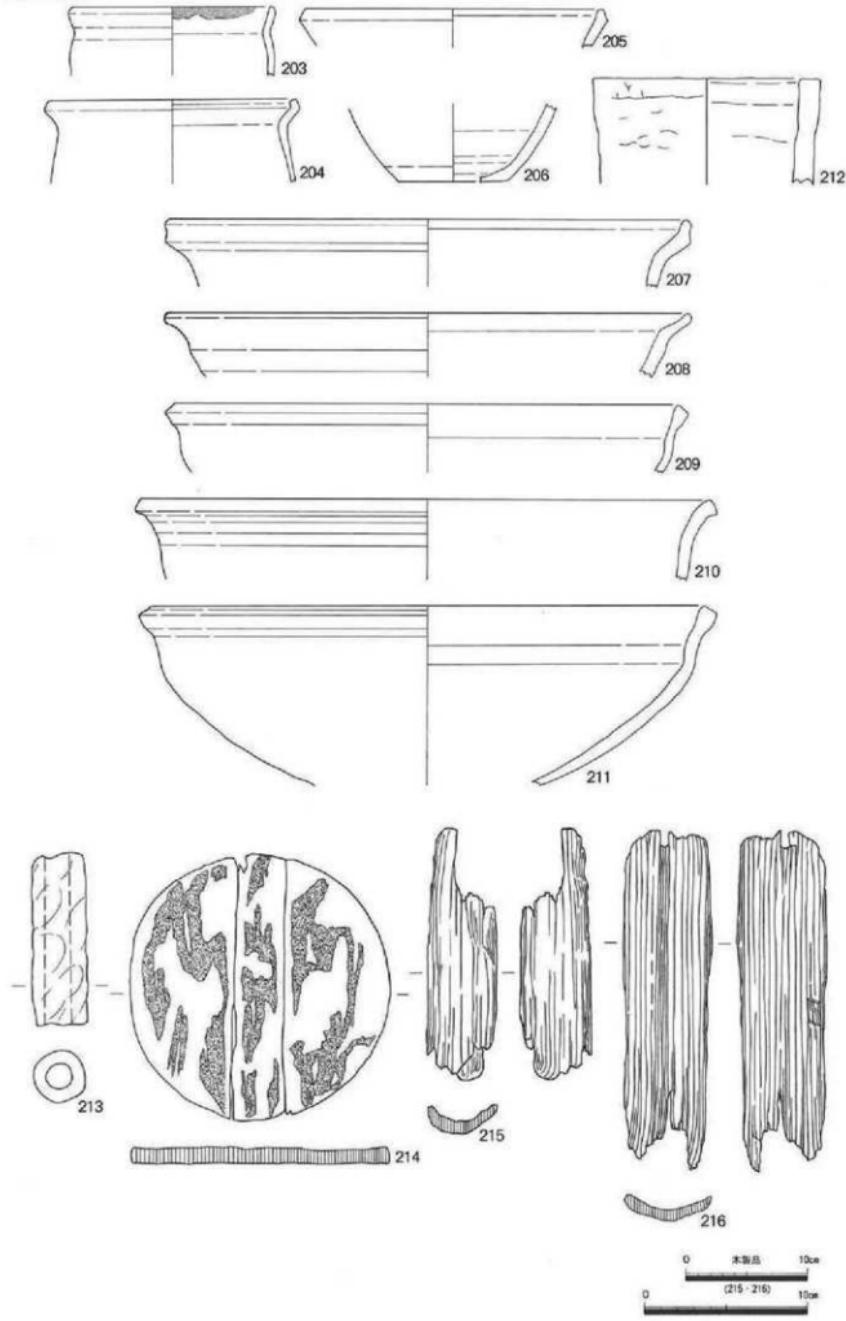
201



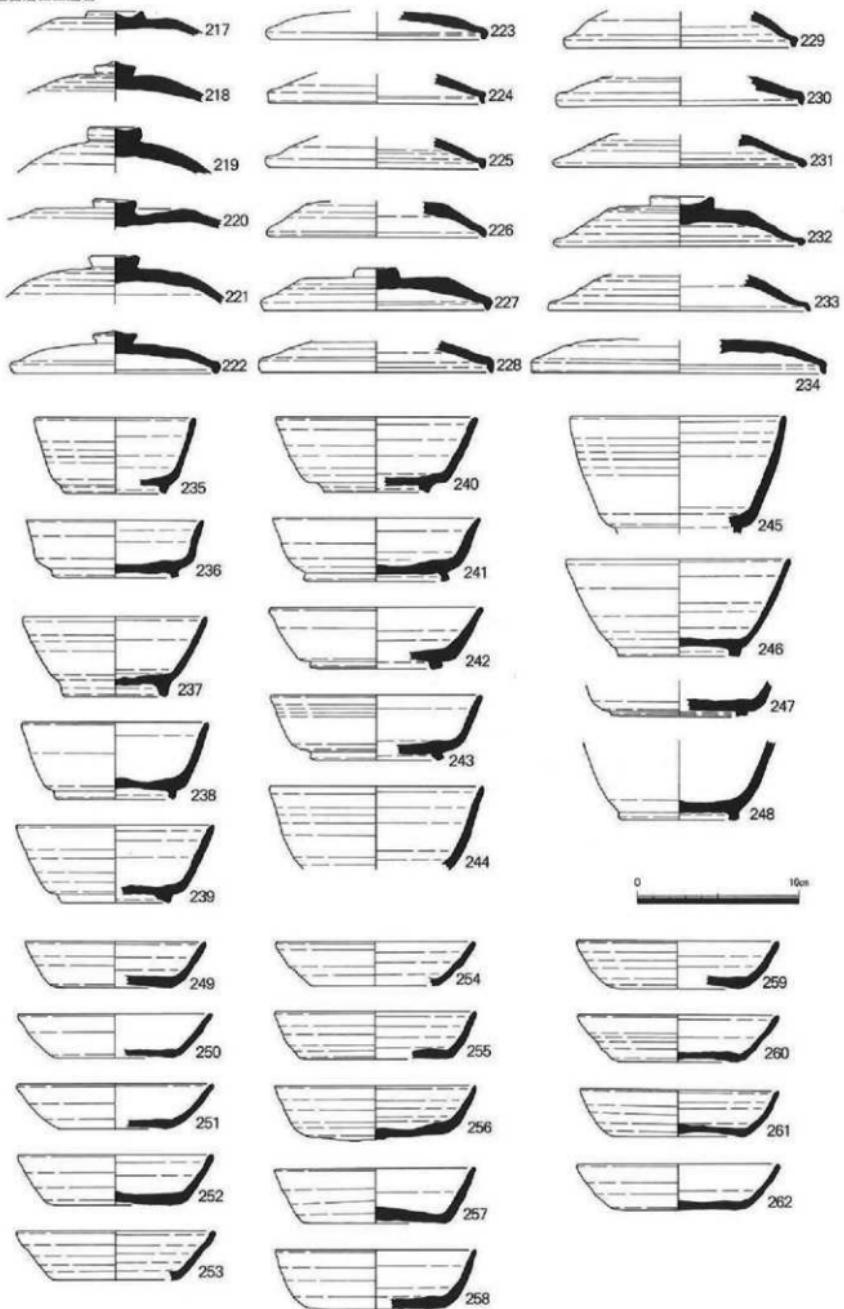
202



図版17
川跡出土遺物



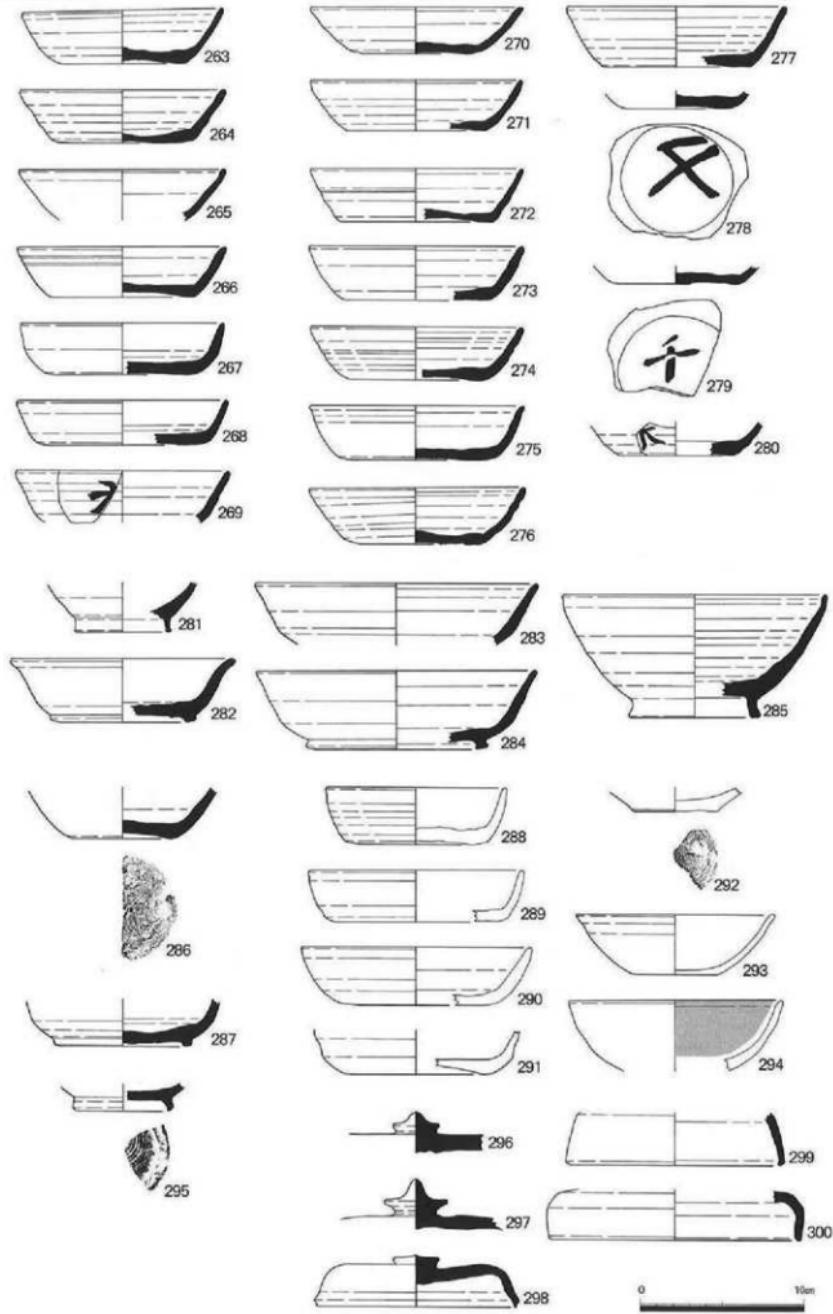
包含層出土遺物



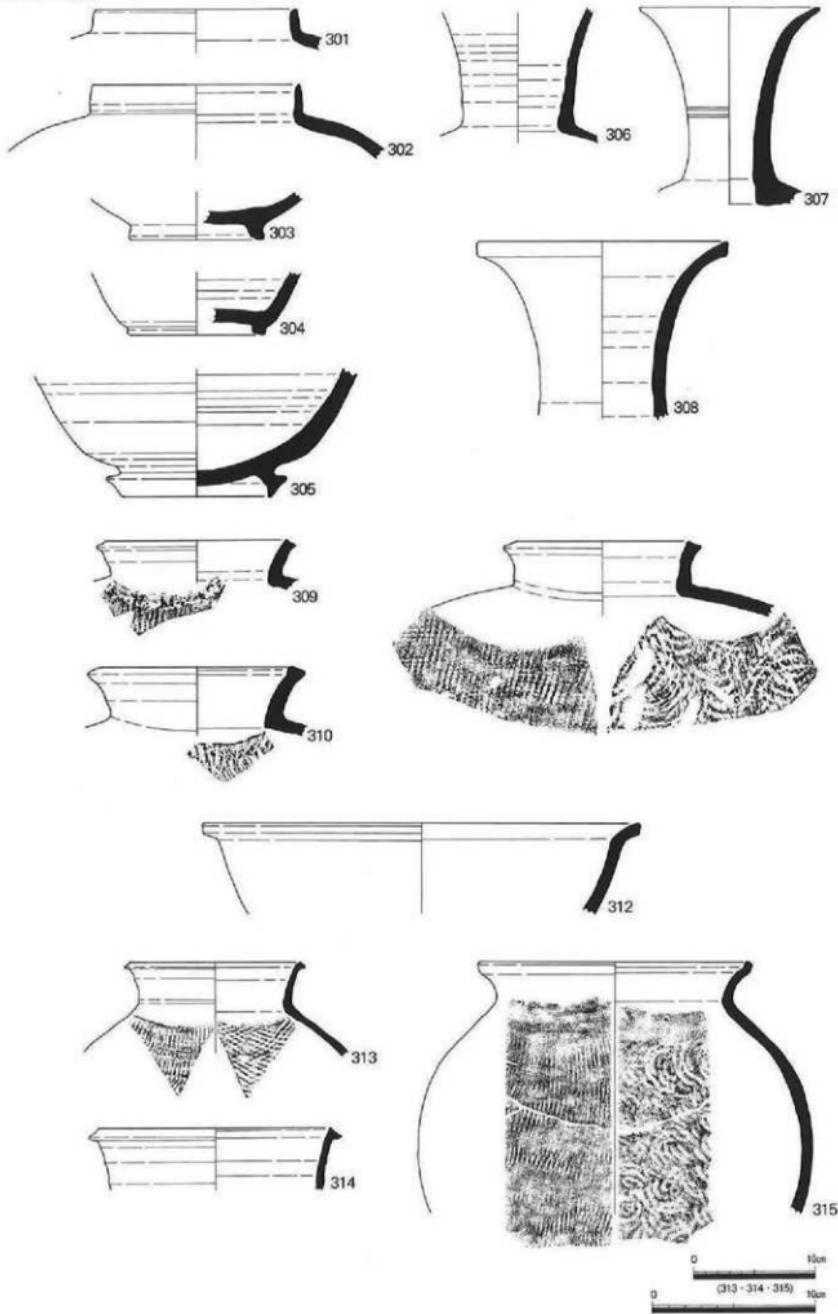
0 10cm

図版19

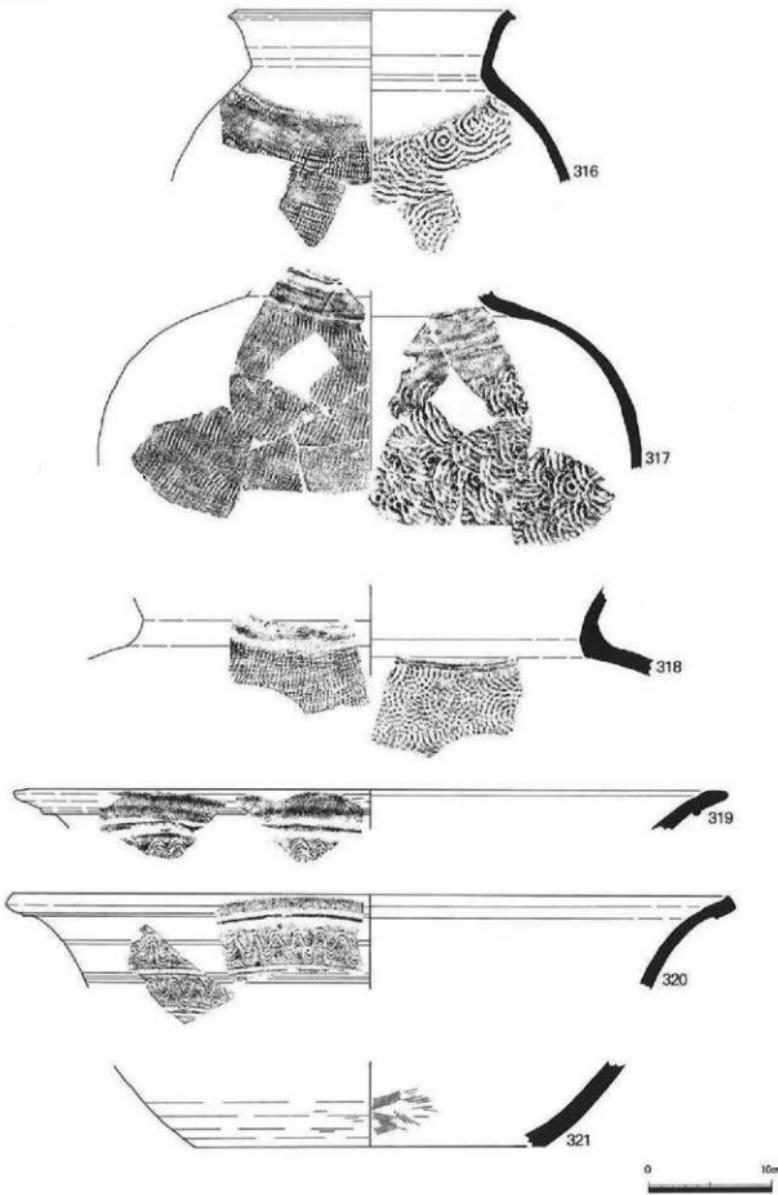
包含層出土遺物



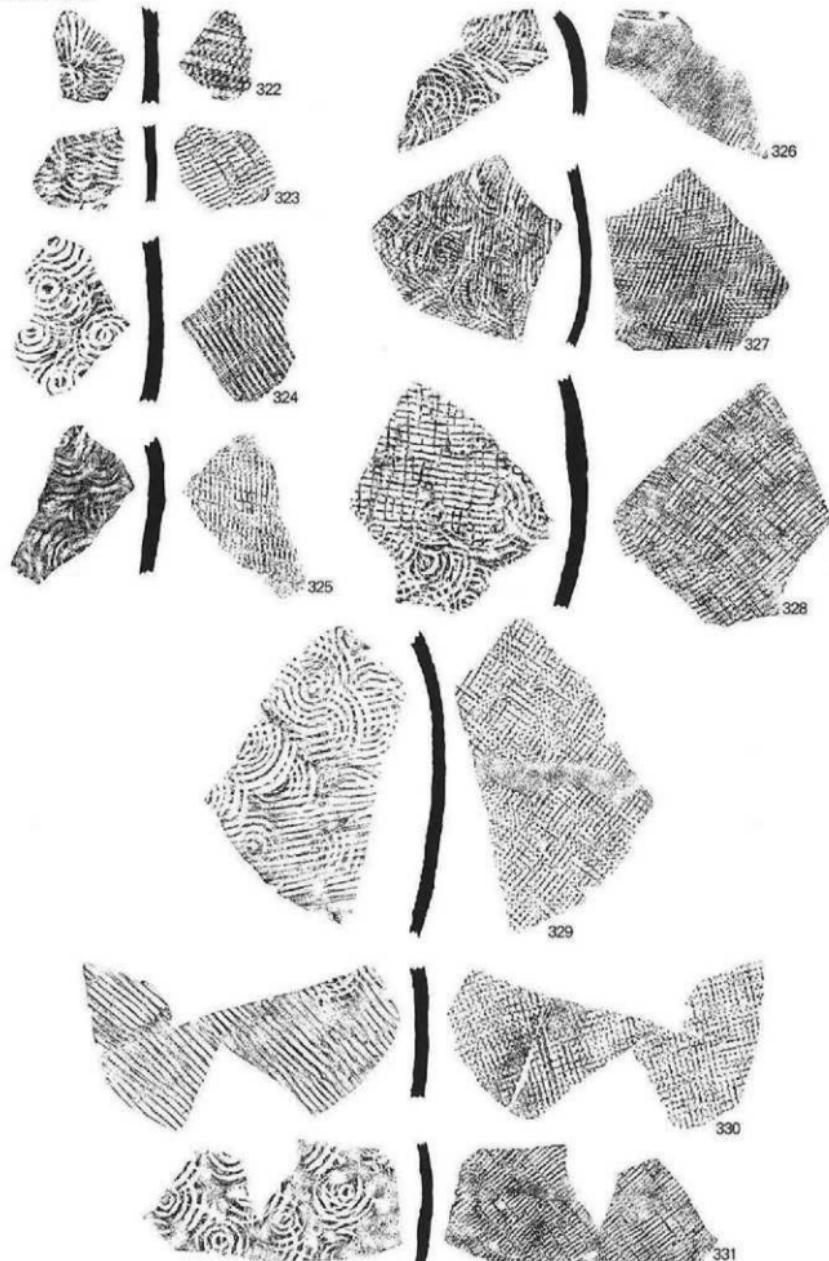
包含层出土遗物



図版21
包含層出土遺物



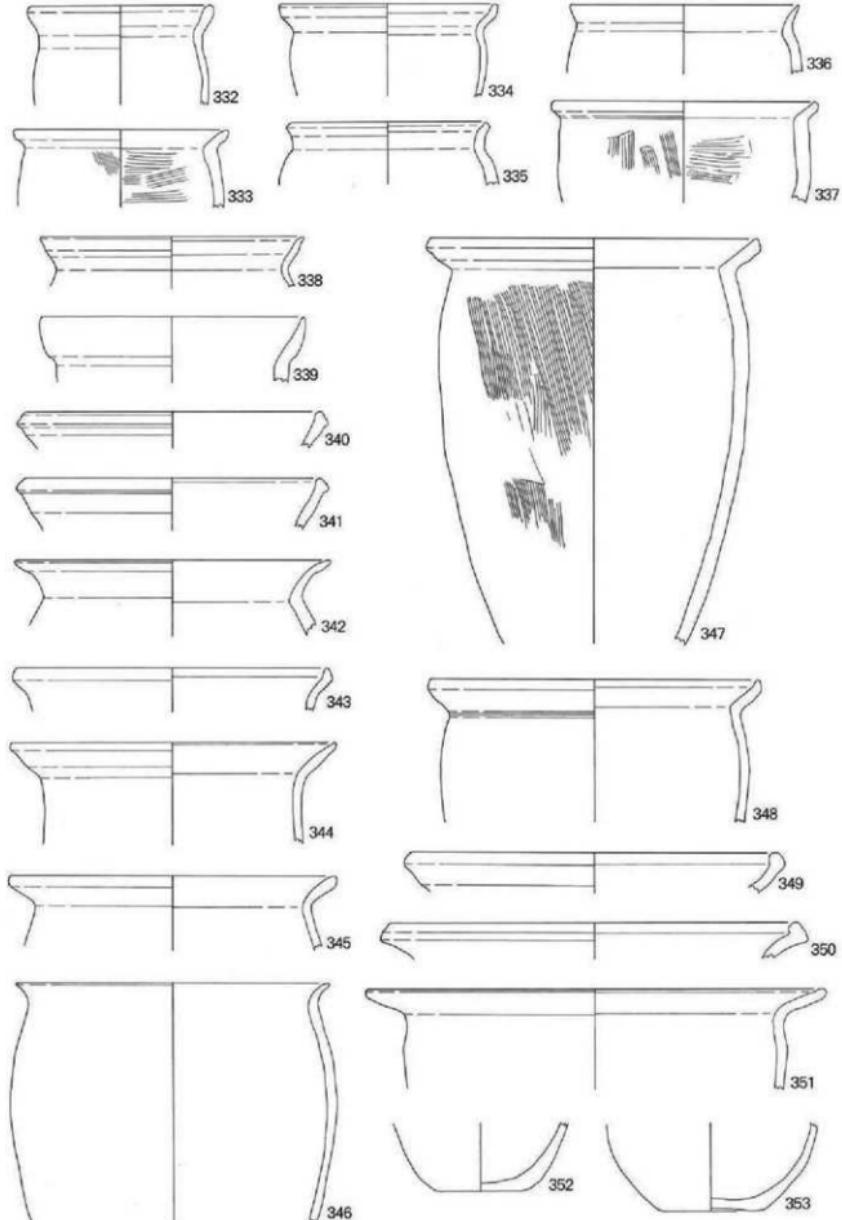
包含層出土遺物



0 10cm

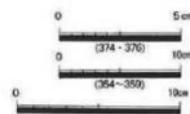
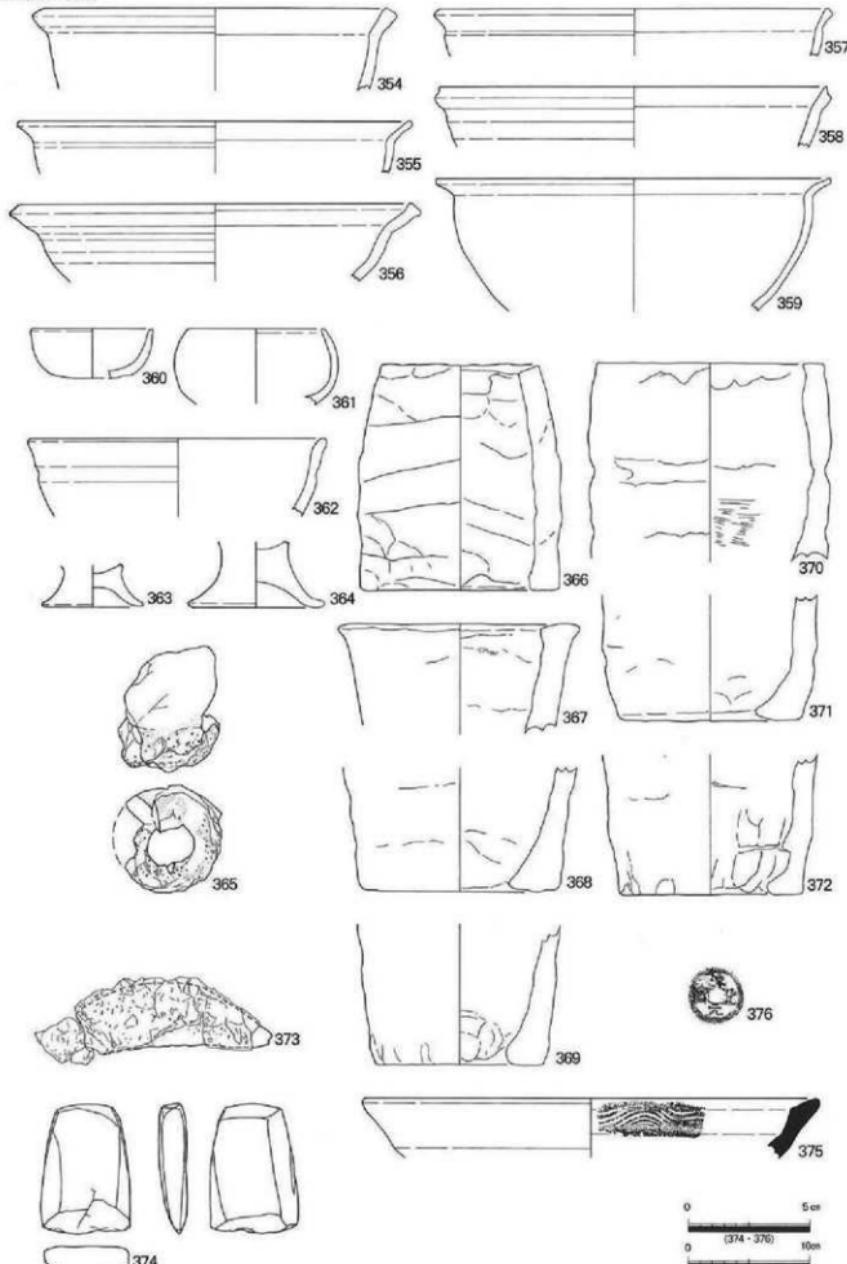
図版23

包含層出土遺物



0 10cm

包含層出土遺物





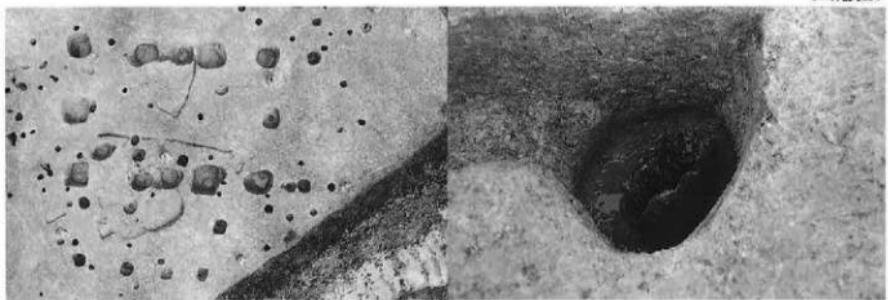
遺跡全景（左が北）



遺跡遠景（南から）



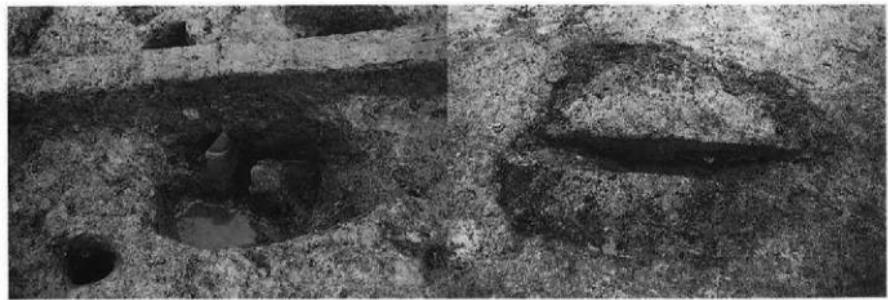
遺跡遠景（東から）



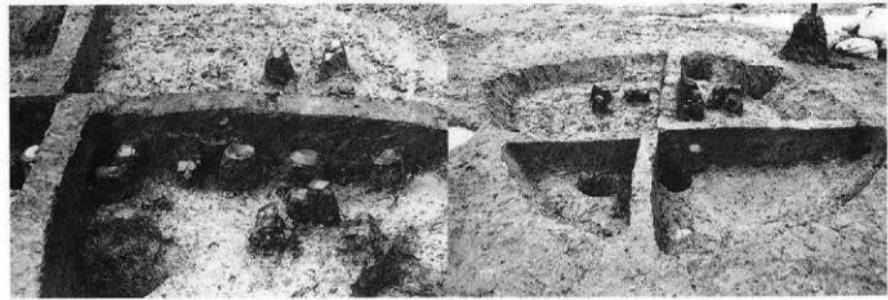
SB 1・2・3, SA 1 (左上が北) SP 241 柱根出土状況 (南から)



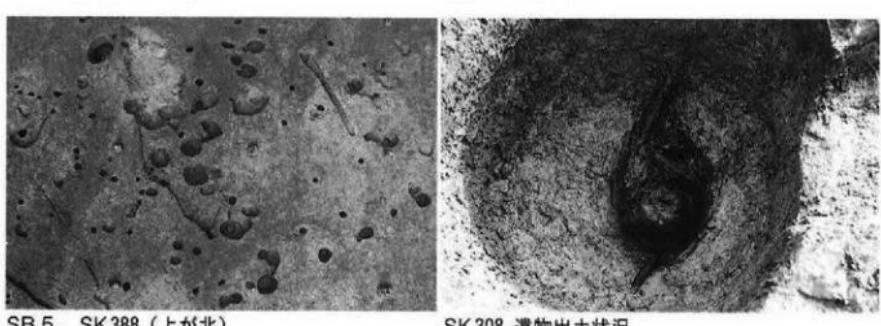
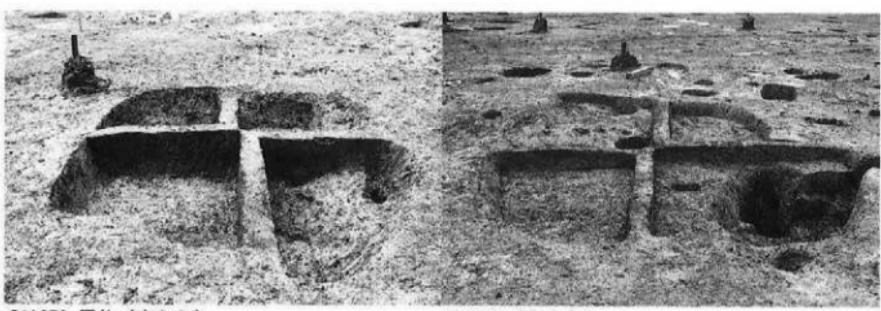
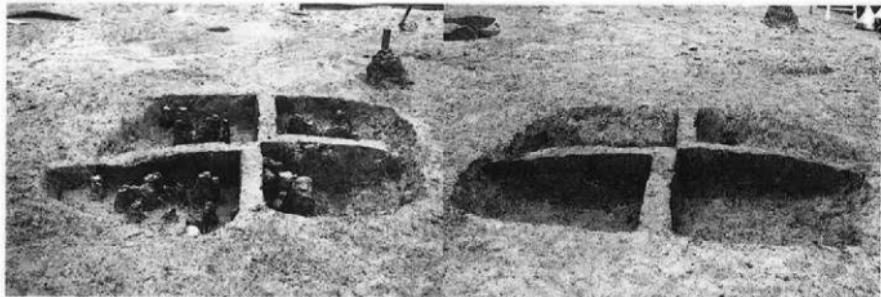
SP 231 層位 (南から) SP 174 柱根出土状況 (北から)



SP 387 遺物出土状況 (南から) SK 223 層位 (南から)



SK 12 遺物出土状況 (南から) SK 12 層位 (西から)





10



14

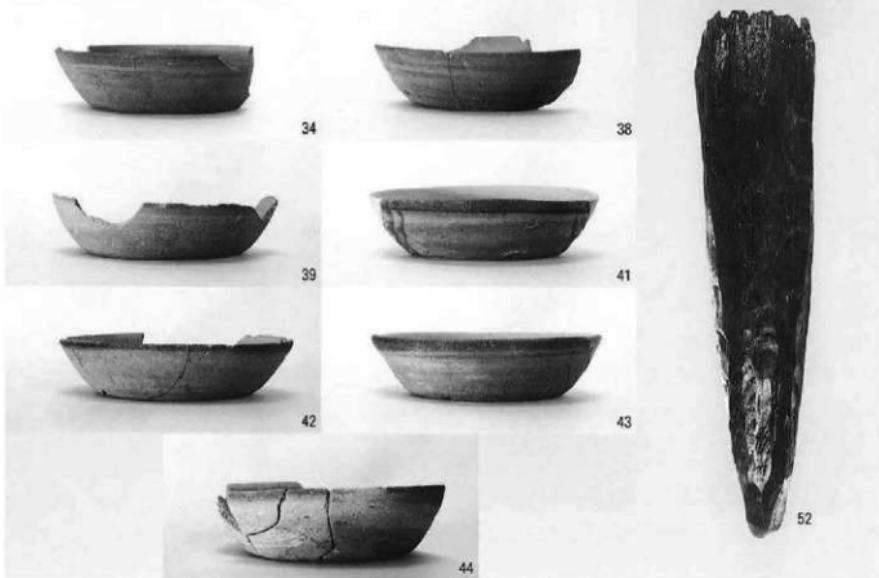
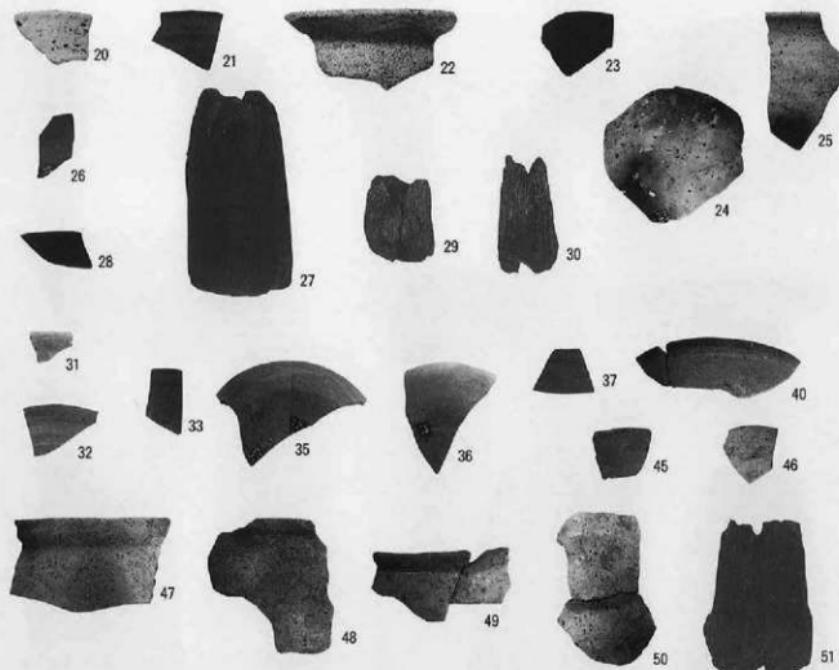


18



19

図版30





54



55



56



57



58



59



60



61



62



63



64



65



66



67



68



69



70



71



72



73



74



75



76



77



78

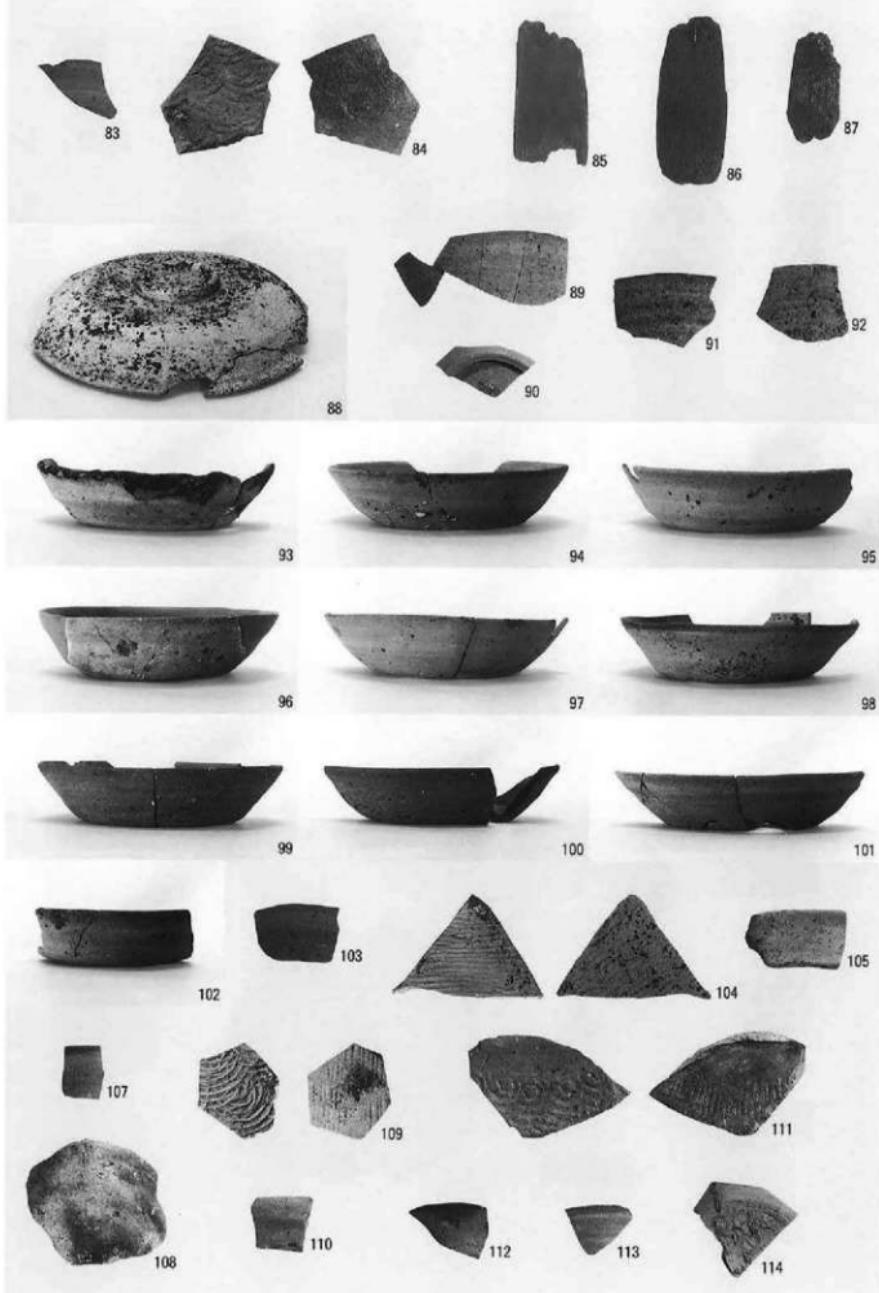


80



81

図版32





117



118



115



120



121



123



122



124



125



129



130



131



126



127

128



132



133



137



134



138



135



136



139



141



140



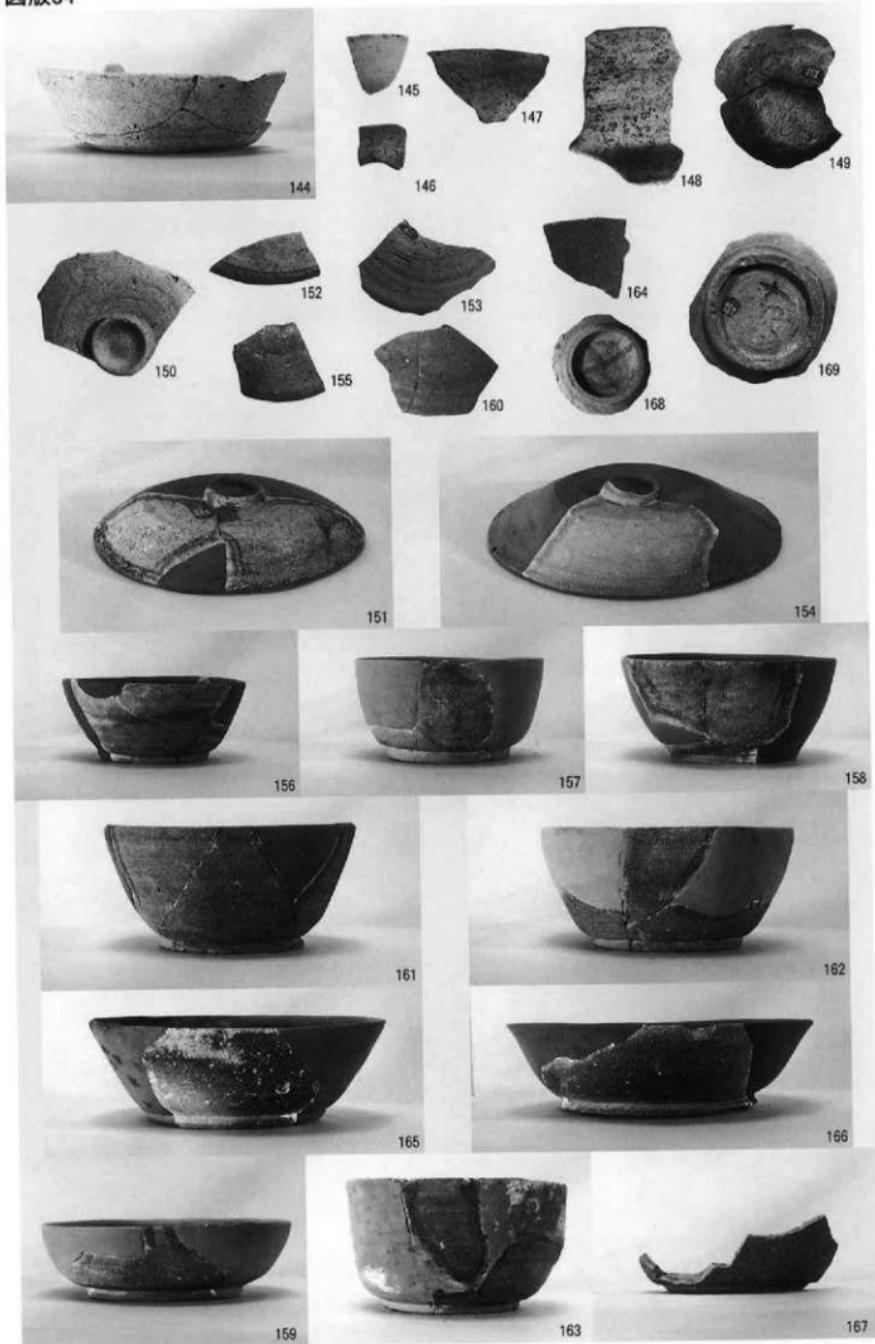
142



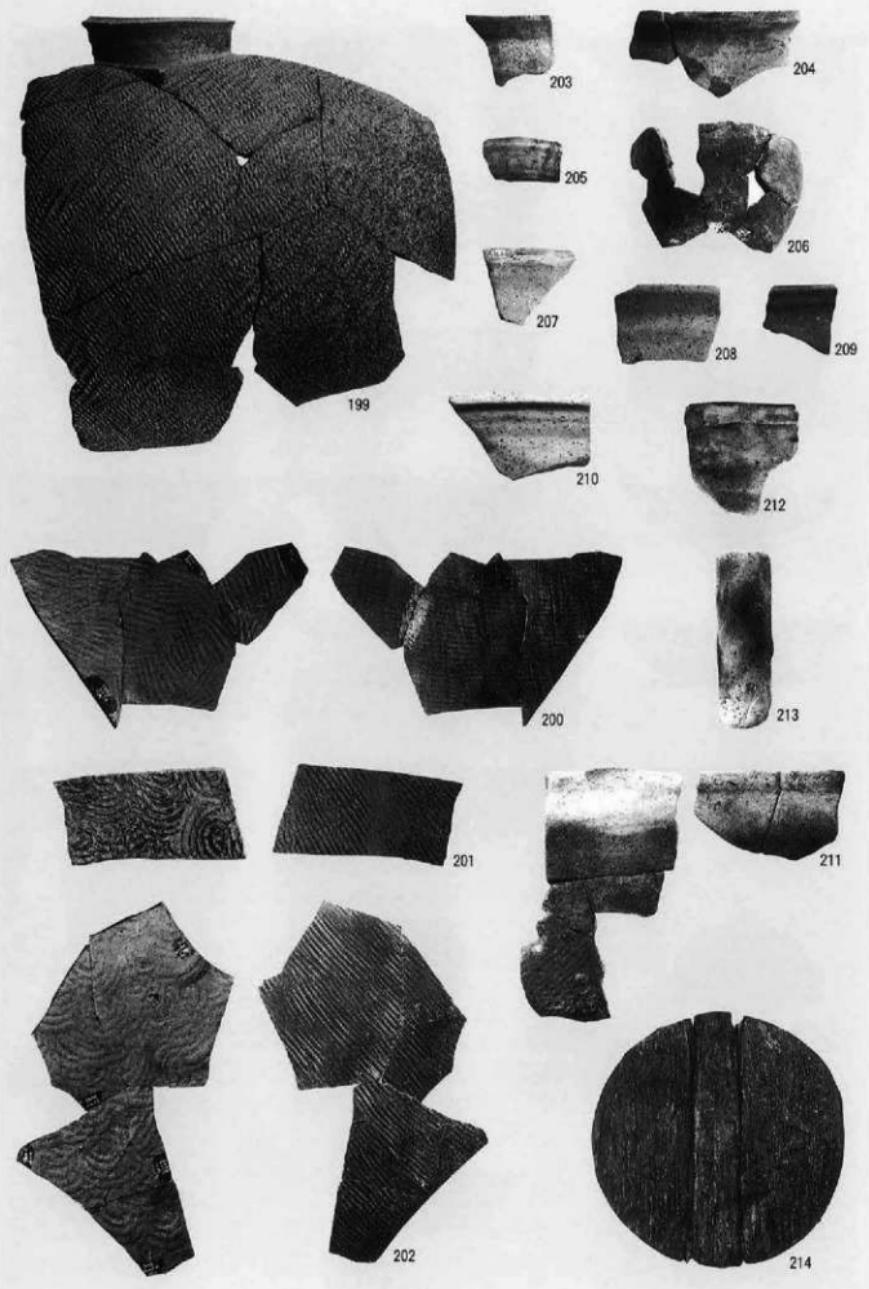
143



139









217



218



219



220



221



223



224



225



226



228



229



230



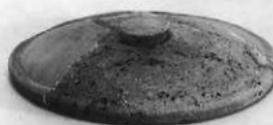
231



233



234



222



227



232



235



236



237



238



239



240



241



243

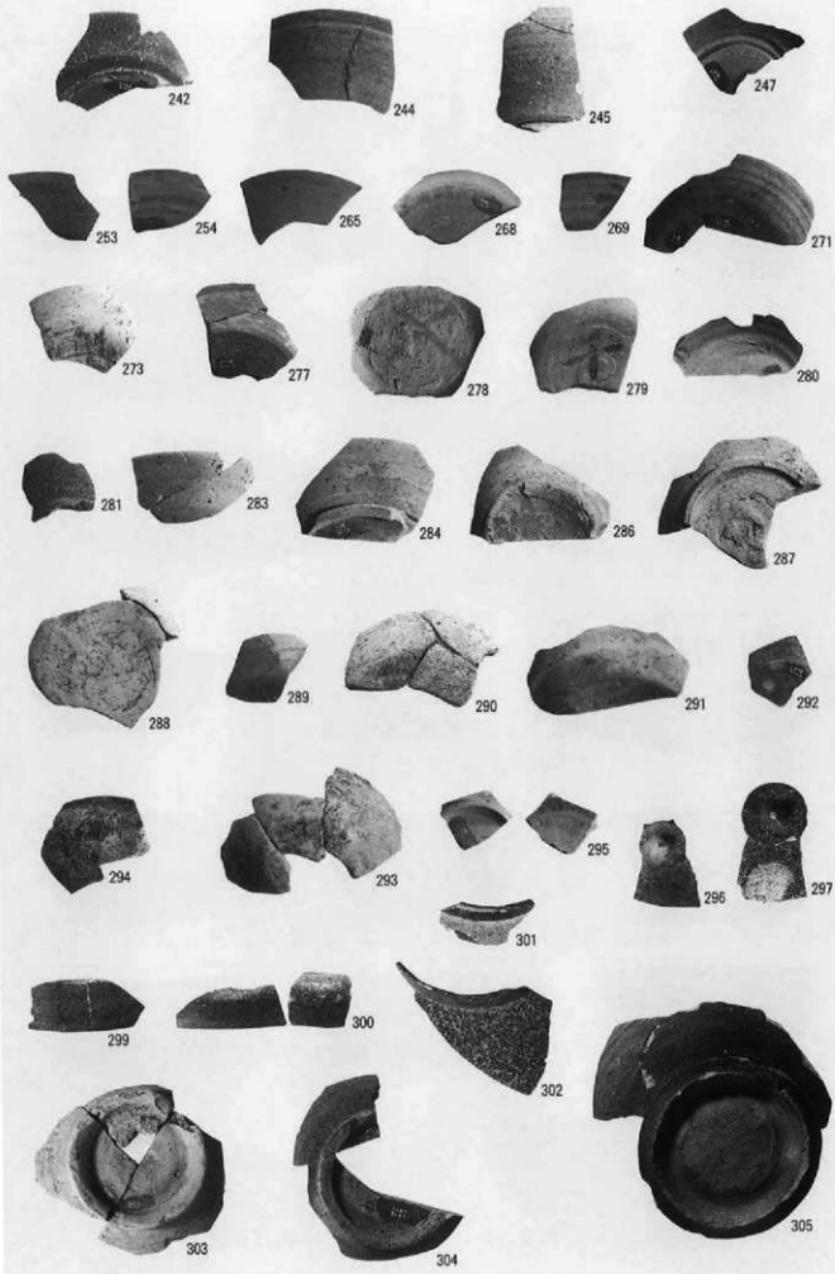


246



248

図版38





306



308



309



310



311



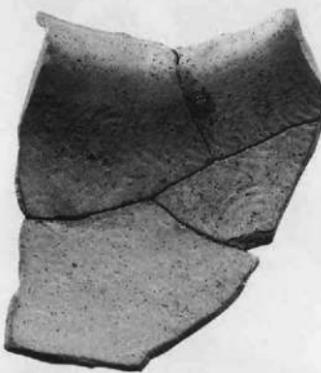
312



313



314

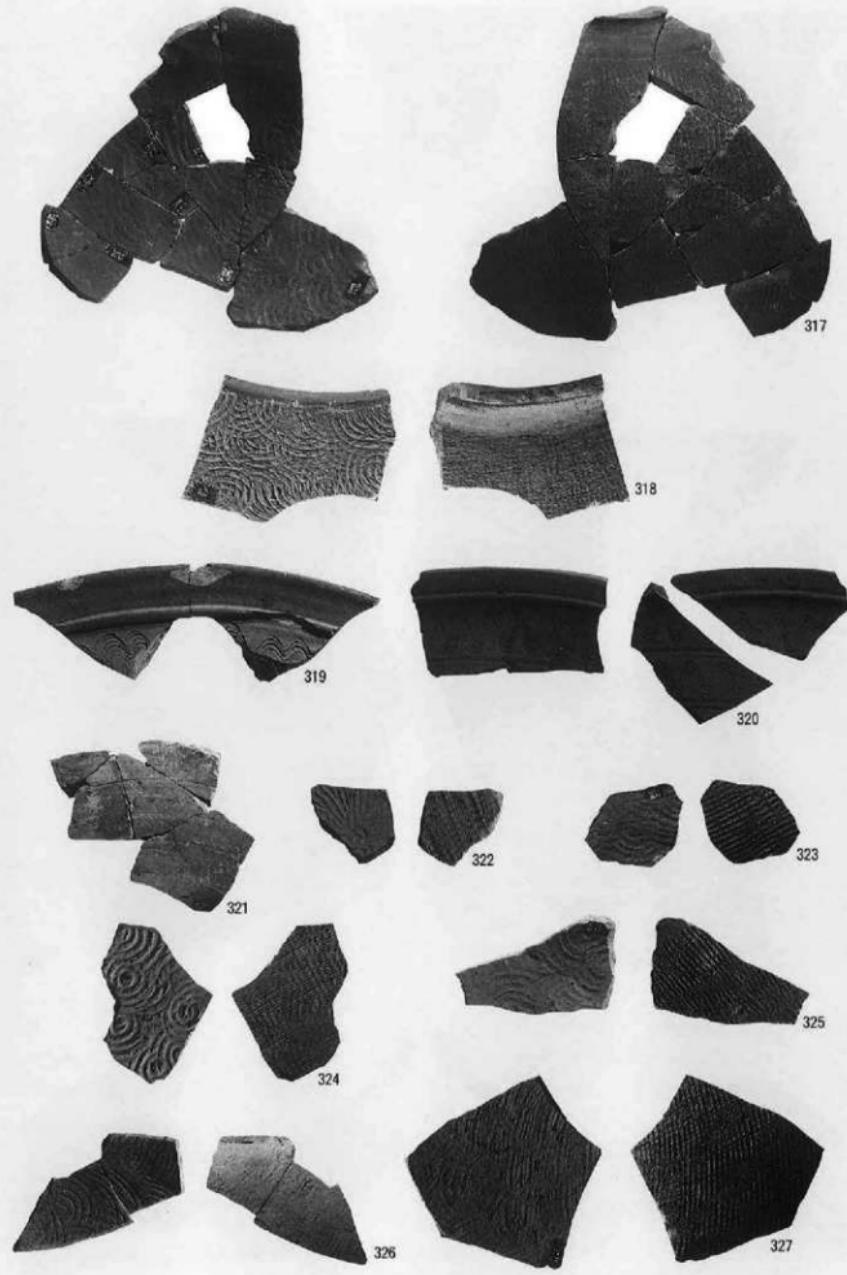


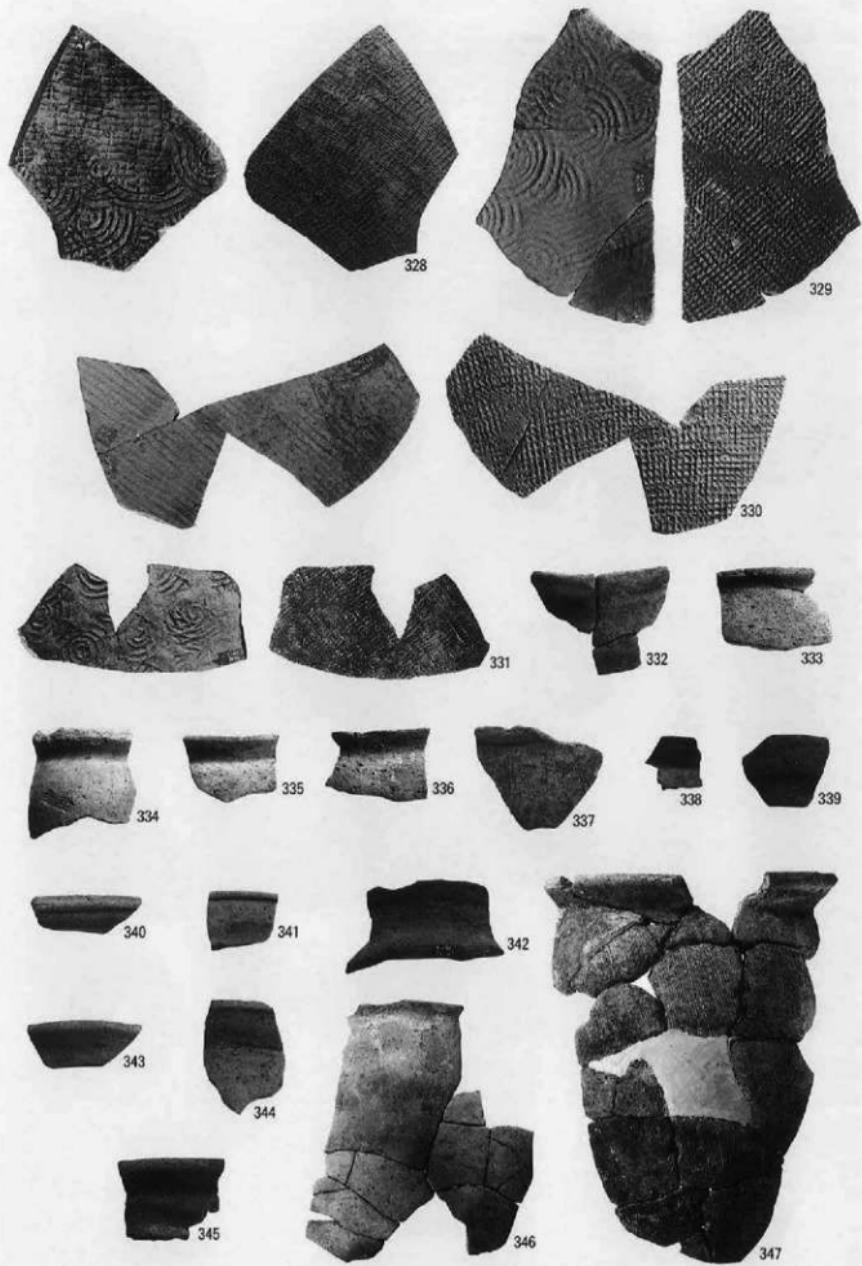
315



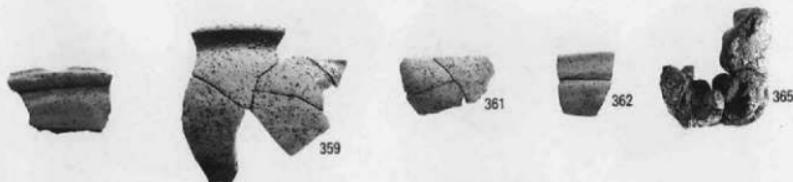
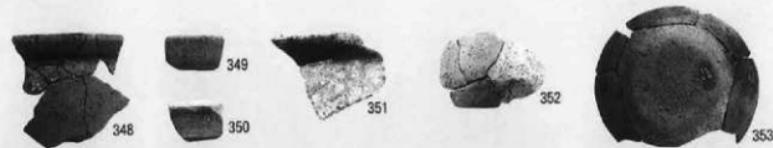
316







図版42



380



363



364



249



250



251



252



255



256



257



258



259



260



261



262



263



264



266



267



270



272



274



277



276



282



285



298



305



307



377



378



379



380



381



382



383



384



385



386



387



388



389



390



391



392



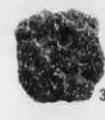
393



394



395



396



397



398



399



400



401



402



403



404



405

西山町文化財調査報告書第6集

新潟県刈羽郡西山町

井ノ町遺跡発掘調査報告書

—県営ほ場整備事業浜忠地区に伴う発掘調査—

2001年3月

発行 西山町教育委員会

印刷 北越印刷株式会社
長岡市福住1丁目6-27